十日町市立里山科学館　越後松之山「森の学校」キョロロ

開館 10 周年記念誌

10th Anniversary of Echigo-Matsunoyama Museum of Natural Science 'Kyororo'

十日町市立里山科学館　越後松之山「森の学校」キョロロ

キョロロ開館当初の様子

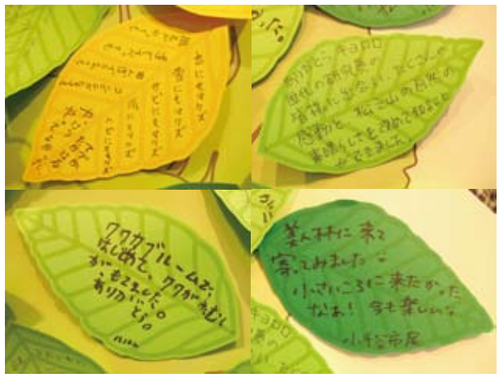
開館当初のキョロロの外観(上段)／竣工式の様子(テープカット:中段左、ジュニアキュレーター：中段右）／開館記念特別展「アボリジニ現代美術展［ 精霊たちのふるさと]」（下段左)、会期中のキョロロ館内の様子（下段右）

キョロロの活動

常設されている大地の芸術祭アート作品「足下の水（200m³）」（作者：遠藤利克）（上段左）／常設展示「志賀夘助 蝶コレクション」（上段右）／ 2008 年企画展「落ち葉の下のいきもの展」の様子（中段左）／ 2010 年企画展「雪里のブナ展」の様子（中段右）／ 2012 年大地の芸術祭特別企画展「キョロロの森のなかまたち」の様子（館内：下段左、館外：下段右）

里山の生き物探検の様子（上段左）／稲刈りイベントの様子（上段右）／木工体験の様子（中段左）／伝統祭事イベント「十二講」の様子（中段右）／第 10 回里山学会の様子（下段左）／第 10 回こども里山学会の様子（下段右）

開館 10 周年記念事業の様子



記念植樹の様子（上段左右）と集合写真（上段下）／記念企画展の 10 周年記念樹に綴られた来館者からのメッセージ（中段左）／記念式典で祝辞をいただいた関口芳史十日町市長（中段右）／記念講演会の様子（下段左）／記念祝賀会で挨拶を行う佐藤利幸元松之山町長（下段右）

開館 10 周年に寄せて

十日町市長
関口 芳史

キョロロ 10 周年に寄せて

平成 15 年 7 月に開館した「森の学校」キョロロが 10 周年を迎えました。「森の学校」キョロロは、地域に根付いた展示や研究を行っている日本を代表する素晴らしい科学館です。10 年という節目をむかえ、松之山地域の皆様をはじめとして、開館準備や建設に携わってこられた関係者の皆様、運営のために多くのご指導をいただいている皆様やこれまで勤務していただいた職員の皆様に、心よりお礼を申し上げます。

そして皆様とともに、10 年間「森の学校」キョロロが育んできた数々の成果をお祝いしたいと思います。

キョロロの特徴は、少子高齢化に伴う人口減少が続く中で、十日町の自然や伝統文化を活かし、体験・交流、教育・普及、里山保全、観光・産業活性、展示・情報発信を通して、地域の活性化を図る博物館施設であることです。学芸員や研究員を中心に、市民の皆様と協働で地域の自然や伝統文化、また、その課題について調査・研究を行い、その成果を内外に広く発信してきました。これまでの活動を通して、市民の皆様からは地域の自然や伝統文化をぐっと身近に感じ、そしてその価値を改めて見直すきっかけの場としてキョロロを活用していただきました。地域内外の子どもたちが目を輝かせキョロロへ集うことはこの上ない喜びであるのと同時に、様々な世代の生涯学習の場としてもキョロロはその機能を十分発揮しています。また、そこにとどまらず、地域活性化にまで結び付けるキョロロの活動は、里山における地域活性化のモデル、拠点となる他に類を見ない先駆的価値を持った博物館といえるでしょう。大地の芸術祭や美人林との相乗効果もあり、特に交流人口の増加には大きな成果を上げ、今後も里山の魅力発信や都市と農村の交流促進がますます期待されます。

また、もう一つの特徴は、日本の名建築の一つとして選ばれた建物自体にあります。鋼板を溶接した躯体で、棚田の畔を模したくねくねした形と、雪の断面を見ることができる分厚いアクリル窓など、豪雪地ならではの工夫があります。建築としての魅力、そして何よりも松之山郷の素晴らしさと、ロケーションのよさの中に建つ存在の大きさが魅力であり、ハード面もソフト面も内外に誇れる十日町市を代表する重要施設であります。

10 年を振り返り、雪に育まれた里山「雪里」の宝物を、改めて市内外の皆様とともに調べ、有機的につなぎ、行動することで地域を創る科学館として再出発する覚悟でいます。そのためにも、これまで以上に多くの皆様からご指導をいただくとともに、「森の学校」キョロロを運営する市としても、多くの皆様に利用していただけるよう努力してまいります。

結びに、「森の学校」キョロロに対し、今後も皆様から変わらぬご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げ、10 周年に寄せてのあいさつといたします。

開館 10 周年に寄せて

十日町市教育長
開館 10 周年記念事業実行委員長
蔵品 泰治

キョロロ 10 周年に寄せて

キョロロは、この度開館 10 周年を迎えることができました。これまでキョロロの活動を支えてくださいました各界の先生方や地元下川手集落の皆様など多くの関係者に心から感謝を申し上げます。

キョロロの物語は、18 年前の平成 8 年に始まります。当時、旧松之山町は、広域的地域振興策の里創プラン越後妻有アートネックレス整備構想に取り組んでおり、その後構想は、大地の芸術祭として花開きました。キョロロの建物は、第２回大地の芸術祭において松之山ステージとして建設され、平成 15 年 7 月 20 日にオープンしました。

キョロロの活動のコンセプトは、地域資源であるブナ林や棚田といった自然や伝統行事などの文化を活かした多面的な研究活動を基盤とし、教育、展示、体験・交流、里山保全、産業活性などへ幅広く活用することにより、今までにない地域づくりを目指すことにあります。

お陰様でキョロロは、楽しく見て触れて学ぶことができる参加体験型の里山科学館として、地域内外の多くの人たちに親しまれています。入館者数は、最初の３年間の累計は 63,000 人でありましたが、直近の３年間では 132,000 人と、２倍以上に伸びてきています。

これからの 10 年を展望し、第二の美人林造成を目的に実施した昨年 10 月のブナの植樹事業のように、さまざまなことに種まきしながら活動に磨きをかけ、更なる発展を目指していきたいと決意を新たにしています。

新潟県議会議員
村松 二郎

キョロロ 10 周年に寄せて

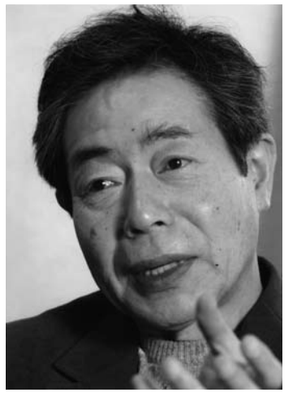
十日町市立里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロ開館 10 周年を記念し、心よりお祝いを申し上げます。

縄文の時代から森は採取狩猟を通じ、人々に暮らしの糧を与えてくれる命の源でした。僅か半世紀ほど前まで、里山の森は身近な燃料の供給源として地域の暮らしを支え、よく整備された森は、山菜やきのこなどの恵みをもたらし、固有の里山文化を醸成してきました。しかし、エネルギーの変革、外材による林業の不振、稼業の多様化が里山集落に及び、人の手が入らない森は次第にその姿を失い、自然と人が共存する社会、現在では最先端の暮らしともいえるエコ社会が消えたことを大変残念に思います。

森の生態系の営みによって生じた豊富な栄養分は、四方を海に囲まれたこの国の豊かな水産資源の源泉となっています。また、森は緑のダムとして減災機能を担い、豊かな水源を涵養しています。こうした多様な役割を持つ日本の森は、森の民として生きてきた日本人のみならず、世界にとりましても類を見ない貴重な財産です。

これらの森の多様な役割を、この「キョロロ」に携わる多くの皆さまがそのご活動を通じ、広くご教示されておられますことに、林業に係る一員として深く感謝申し上げます。同時に、皆様の多大なご尽力により 10 年という筋目を迎えられましたことに、心より敬意を表します。

森に佇む松之山は、今尚、里山の景観を残しています。皆様のますますのご活躍が更に地域の活性化を喚起いたしますことを祈念申し上げ、お祝いのご挨拶といたします。



総合研究大学院大学 理事・教授
「森の学校」キョロロ 顧問
池内 了

これまでの 10 年、これからの 10 年

キョロロが誕生する前から見守ってきた人間として、キョロロがすくすくと育って 10 歳になった姿を見て強い感動を覚えている。ヨチヨチ歩きから、ようやく一人前に自分の意見を言える小学４年生くらいになったと実感するからだ。最初は私の手助けが必要であったが、スタッフが徐々に力をつけて自分たち自身で方針を決めて実行するようになり、もはや私の手助けが必要ないような状況になりつつある。キョロロの名前も全国版となっているようで喜ばしい。これまでの10年が概ね順調で目標通りであったことを物語っている。

しかし、考えようによってはまだ 10 年しか経っておらず、真価はこれからの活動で験されると言うべきだろう。新参者であればこそできた新しい取り組みやユニークな催しも 10 年経てば古びてくる。といって簡単に止めることができない。独自の試みであったものが当たり前の活動になり、新鮮さを失っていくことにもなる。それらに気づきながらも周囲の環境が変わらないのだからと言い訳して惰性に流れていく。10 年を乗り切った後にくるのはそんな危機ではないだろうか。

これからの 10 年は、初心に戻ることが大事である。最初のスローガンに掲げた「町民みな科学者」と「等身大の科学」が本当に実践できているのかを点検し、整理する活動と新たに始める活動を仕分けすることだ。キョロロを訪ねてくる人が「新鮮な驚き」と「懐かしさ」が味わえる、そんな温故知新の科学館として成長し続けて欲しいと願っている。

アートフロントギャラリー 代表取締役
「森の学校」キョロロ ディレクター
北川 フラム

10 周年に寄せて

日本、あるいは世界中のどの地域でも、そこに住み、生きた人々は、その土地の特性、気象の条件に適わせて、料理をし、衣服を工夫してきました。それら生活の総体が文化だと思います。

その意味で、古くからの松之山の特質を活かし、十日町地域６市町村における役割を考えていくなかから「森の科学館」が構想されました。

自然が豊かで絶滅危惧種を含んだ、菌類、植物、昆虫、魚、鳥類の多様さと、それらの自然とうまく折り合いをつけて生きてきた里山の生活はまさに、「人間は自然に内包されている」との大地の芸術祭を体現してきた地域の歴史でもありました。

そこでは町民一人一人が地域についてよく知っているわけです。町民皆が科学者であるという理念を活かすものとして、研究と体験する施設としての「森の科学館・キョロロ」が立ち上がったのです。池内了先生を指導者に迎え、研究者、スタッフが創意工夫をすることによって、キョロロの 10 年間は、独特の個性をもった施設を作ってきたと思います。最初に来た子どもは、中学生になった今も毎年キョロロに来るのを楽しみにしています。家族連れのリピーターも多い。自然と人が関わった里山の生きた研究、展示、参加の場としてのキョロロのますますの展開に期待したいし、そこに関わっていきたいと思います。

開館 10 周年に寄せて

手塚建築研究所
「森の学校」キョロロ　設計者
手塚 貴晴＆手塚 由比

キョロロと美人林とブナ

松之山ステージ「森の科学館」の設計者に選んで頂いたのは今から 12 年前のことになります。キョロロの設計中に娘が生まれ、松之山のブナ林「美人林」にちなんでブナという名を娘には付けさせて頂きました。その娘も間もなく小学校 6 年生となります。キョロロと共に生まれ育った娘です。その後も家族や学生と共に毎年通い、松之山は我々の第二の故郷となりました。10 周年記念式典にはキョロロの設計に参加した当時の所員をひき連れて参加させて頂きました。久しぶりの懐かしい方のお顔を拝見するうちに、当時の若かった我々のチームへの松之山の方々の暖かいお心遣いがふつふつと腹の底から蘇って参りました。

キョロロは松之山の文化と自然を研究し世界に発信する施設です。極めてローカルではあるのですがローカルであるが故に世界への発信力を有しています。世界に行くと頻繁にキョロロの写真を目にします。今や世界中の方々がキョロロに視線を送っています。キョロロは古くなれば古くなるほど味を増し歳を重ねる建物です。鋼板の茶色は濃くなっていきます。松之山の方々の笑顔に支えられ今後ともキョロロがより風土と一体化して行くことを願っています。次の 20 周年記念式典を楽しみにしております。

「森の学校」キョロロ　館長
村山 暁

身近な科学を体験できる場としてのキョロロ

身の回りに繰り広げられる自然現象は、いつの時代も私たちに素朴な疑問や強い好奇心を呼び起こしてくれます。特に子どもにとって自然は、小さいころからの遊びの対象として、また、人間として成長するために体験し学ぶ場として大きな役割を果たしています。私たちの暮らしそのものも、自然の恩恵なしには生きていけないように自然と密接にかかわりあっています。私たちはその自然に意識的に働きかけ、自然の産物をめぐみとして受け入れたり、自然のしくみのたくみさに学び、美しさに感動し、不思議さに疑問を持ち自分の生き方を考えたりします。この地に生まれ、この地の自然や歴史や文化で育まれた地域住民一人一人がいっそう活き活きとなるきっかけづくりの拠点施設が「森の学校」キョロロです。

キョロロが開館して 10 年が経過しました。この間、14 人の研究員等を含めて述べ 87 名の職員、運営委員の方々をはじめ、地域内外の大勢の方々のご理解とご協力を得て様々な成果を挙げてきました。これからのキョロロは、これまでの成果を踏まえ、キョロロの機能をこれまで以上に発揮させ、開館当時の理念のさらなる実現に向けて歩みを進めなければなりません。「森の学校」キョロロは、建物自体が芸術作品であり、自然と芸術がコラボした他とは少し変わった建物であることを大いに活かし、これからも自然とふれあい、身近な科学を体験できる場として多くの皆様に親しまれる施設となるよう努力していきたいと決意を新たにしているところです。

大分大学　教育福祉学部　准教授
「森の学校」キョロロ　元学芸員
永野 昌博

わが子キョロロへ「10 歳おめでとう」

キョロロは私にとって子どものような存在です。松之山の方々が父で、キョロロスタッフが母ではないかと勝手に思っています。じさま・ばさまは、池内先生、北川さん、佐藤元町長や建設時にご尽力いただいた方々でしょうか。その他にも親戚のおじちゃん・おばちゃん、いとこ、友達、先生などにあたる大勢の方々の愛に育まれてキョロロは 10 歳を迎えることができたと思います。

キョロロが 7 歳半までは、私も母の 1 人としてキョロロを手塩にかけて育ててきたのでキョロロへの想いは今も並々ならぬものがあります。苦労かける子ほどかわいいとは言いますが、6 歳ごろまでは特に暴れん坊で、育てるのに一苦労でした。0 歳の時は、私の休暇日は片手で数えられるほどでした。というのも、キョロロも赤ちゃんでしたが、父も母もじじもばばもみんながみんなキョロロが初子、初孫であったため、誰も育て方を知らなかったのです。そのため、当時私は母親代表として日本中の博物館を巡り、アポなしで各館の運営責任者を訪ねては、運営のノウハウやコツを教わる旅をさせてもらいました。しかし、その旅で悟ったのです。キョロロは生まれながらにオンリーワンの存在なのだということを。建物や雪の量はいわずもがなですが、若手博士を核としたスタッフ体制も、松之山の人も文化も生態系も、そして何より目標が ‘住民協働による地域づくり’ であることが他の博物館とは大きく異なる点でした。つまり、キョロロを育てることは前人未到のチャレンジでもあることを悟ったのです。だからこそ、キョロロは育て甲斐があり、また、人を惹きつけ、愛されてきたのだと思います。

今やキョロロは日本の博物館業界では知らない人はいないほどに成長し、注目され続けています。しかし、まだキョロロは夢半ばであり、まだまだ成長過程にあります。これからも大勢の人に愛され、育てられていかなくてはキョロロの夢は叶うことはないでしょう。私もキョロロを愛する一人として、これからもキョロロの成長を見守り、応援していきたいと思います。

十日町市立里山科学館　越後松之山「森の学校」キョロロ

開館 10 周年記念誌

10th Anniversary of Echigo-Matsunoyama Museum of Natural Science 'Kyororo'

目次

開館 10 周年によせて 1

第 1 章 「森の学校」キョロロの概要

「森の学校」キョロロの理念と事業体系 8
沿革 10
施設概要 12

第 2 章　活動記録

常設展示 14
企画展示 16
体験イベント 20
市民講座・学会 22
出版物 24
博物館資料 26

第 3 章　開館 10 周年記念事業の報告

開館 10 周年記念事業 28
開館 10 周年記念式典・講演会・祝賀会 30
「10 周年記念樹」へのメッセージ 31

付録

利用者数の推移 34
職員一覧 36

第 1 章

「森の学校」キョロロの概要

キョロロの理念と事業体系

「森の学校」キョロロの設立背景

十日町市松之山地域は日本の原風景ともいえる里山景観、日本三大薬湯松之山温泉、ブナ林（美人林）などの観光資源を有する一方で、少子高齢化・過疎化が顕在化する典型的な農村地域でもあります。「森の学校」キョロロは、このような地域特性に基づき地域活性化を担う自然史系博物館として 2003 年 7 月に開館しました。地域の拠点施設として自然史系博物館建設が選ばれた主な理由には、1）地域の自慢は何よりも豊かな自然であることを旧松之山町の行政が認識していたこと、2）旧松之山町は教育を重視していたが、町には理科系の教育施設がなかったこと、3）旧松之山町出身で、日本の昆虫採集の父とも呼ばれている志賀昆蟲普及社の創設者である志賀外助氏の 3,800 点に及ぶ世界の蝶コレクションを町は保有していたが、それを展示・管理する施設がなかったこと、4）どこにでもあるような地域振興施設では、持続的な地域の活性化や地域外への強い発信力は望めないであろう、という 4 点があげられます。

「森の学校」キョロロの活動理念

「森の学校」キョロロの活動理念は、地域づくりを目的とした「地域住民との協働」、「都市と農村の交流」による「等身大の科学」、「住民皆科学者」、「地域全体博物館」の構築です。

「等身大の科学」：地域住民が長年の松之山での生活で会得した卓越した観察眼、知恵、技を科学的に研究し、それらを展示、教育、産業活性、地域振興ならびに里山保全活動などと有機的に結び付けて、ノスタルジーに留まることのない新たな活動、この地域ならではの科学を生み出していこうというもの。

「住民皆科学者」：等身大の科学を地域住民と共に作り上げていくことにより、卓越した観察眼、知恵、技を持っている地域住民を語り部から科学者へ変えていこうというもの。

「地域全体博物館」：松之山地域の自然や文化、そこに暮らす人たち、生き物などあらゆる地域資源情報を地域住民と共に発掘・調査・共有化し、それらの情報をいつでも、どこでも検索・閲覧できるような住民参加型システムの構築、ならびに住民が皆科学者となって地域の案内を地域住民が自ら行うことにより地域資源全てを展示物に変え、地域全体を博物館にしてしまおうというもの。

「森の学校」キョロロの施設機能

1）地域の自然から文化に至るまで様々な情報や資料を収蔵・展示する「**博物館**」
2）ブナ林、棚田、雪、伝統文化などの地域資源を活かした催しを企画し、都市と農村との人々の交流を活性化させていく「**体験交流施設**」
3）里山という生きた教材を用い、体験を通じた学習プログラムを提供する「**教育施設**」
4）地域特性や地域資源を活かした産業の創出や支援を行う「**産業活性化施設**」
5）これらの基礎をつくり、さらに発展させるため、博士号を有する学芸員や研究員を配置し、地域の自然や文化を研究する「**研究施設**」

「森の学校」キョロロの事業体系

活動理念に基づいた「森の学校」キョロロの事業体系の主軸は、地域研究を基盤とした‘「協働」による地域づくり’の実践です。雪に育まれた里山「雪里」の自然、文化や人々などの地域資源を基盤とし、地元や都会の住民、学校、研究機関など様々な主体と共に地域の魅力や課題を知る活動を行い、それを広く博物館活動へ展開させています。主な 5 つの活動の柱は、①学校教育・生涯学習支援などの「教育普及活動」、②企画展の開催、研究成果の発表など様々な媒体を通じた地域情報の発信などの「展示・情報発信」、③雪里の自然や文化に関連したイベントの開催などの「体験・交流活動」、④伝統行事の復活や継承、耕作放棄された水田の再生、森づくり活動などを通した「里山保全活動」、⑤観光支援、ガイド育成、地域資源のブランド化などを通した「観光・産業活性活動」です。またこれらの博物館活動を通して、地域を創る新たな芽の育成と、それらの活動の促進・醸成を目指しています。

沿革

※主要な事業のみ記載。

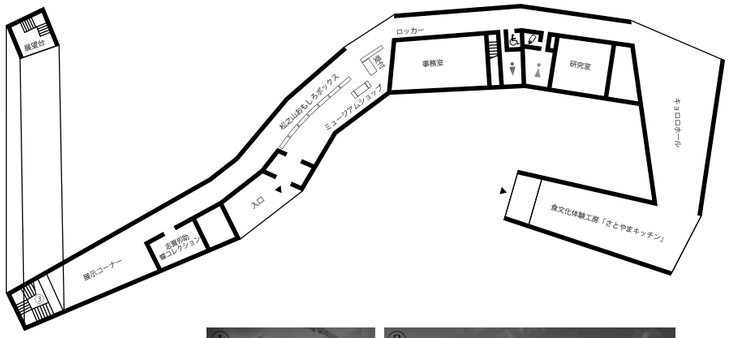
1994 年　**十日町地域**（旧十日町市、中里村、川西町、松代町、松之山町、現津南町）**が「ニューにいがた里創プラン」の地域指定を受ける**
1996 年　**越後妻有アートネックス整備構想を樹立**
1998 年　**3 月　十日町地域ニューにいがた里創プラン　越後妻有アートネックレス整備構想ステージ基本計画発表**
2000 年　**3 月　里創プラン松之山ステージ自然科学館の基本計画 (案) 発表**
2002 年　**5 月　十日町地域ニューにいがた里創プラン事業**
「松之山ステージ整備事業　越後松之山『森の学校』キョロロ」着工
8 月　第 1 回里山学会「新・生物多様性国家戦略と里山」
11 月　第 2 回里山学会「森林の水源かん養機能について」
12 月　第 3 回里山学会「水田農業と共生してきた生物たちの世界」
2003 年　3 月　第 4 回里山学会「大学と里山：金沢大学『角間の里山自然学校』の試み」
4 月　キョロロ準備室
5 月　第 1 回キョロロ講座（里山学会・春の特別企画）「生命の輪」
6 月　竣工式
第 5 回里山学会「屋久島の自然と『屋久島オープンフィールド博物館』構想」
7 月　松之山町立里山科学館　越後松之山「森の学校」キョロロとして開館
第 2 回大地の芸術祭　企画展「アボリジニ現代美術展」
8 月　第 2 回キョロロ講座「日本のクワガタムシ、外国のクワガタムシ」
入館者数 1 万人達成、「森の学校」キョロロ友の会設立
10 月　第 6 回里山学会「美人林を考える」
11 月　企画展「森の水族館」（2004 年以降常設展示となる）、「日本の原風景 越後松之山展」
チャレンジ工房スタート
12 月　第 1 回こども里山学会
2004 年　3 月　第 7 回里山学会「木材の形状記憶」
4 月　企画展「高橋勝彦写真展 ~ 心象松之山私景 ~」
7 月　企画展「熊田千佳慕昆虫絵画展　～命が宿る絵本の世界～」、「クワガタ・カブトムシ展」
第 8 回里山学会「里山に息づく昆虫たち」
10 月　企画展「坂部子一写真展　～望郷松之山路～」、「越後松之山の希少種展 ~ 水辺のお宝大集合 ~」
第 3 回キョロロ講座「きのこのおはなし」
第 9 回里山学会「キノコの世界」
11 月　第 2 回こども里山学会
12 月　企画展「松之山豪雪文化展」、「冬芽展」
2005 年　**4 月　松之山町と十日町市の合併に伴い、十日町市の施設となる**
独立行政法人科学技術振興機構委託研究　理数大好きモデル地域事業スタート
第 10 回里山学会「里山の現在とこれから　ー中山間地直接支払制度を利用した地域づくりー」
6 月　**入館者数 5 万人達成**
5 月　企画展「日本一の昆虫屋『志賀夘助』展」、「松之山山菜展」、「ギフチョウ展」
かやぶき小屋移築
7 月　企画展「カエルの王国　ー松之山カエル展ー」、「クワガタ・カブトムシ展」
8 月　明日へのフォーラム「棚田に吹く風」
9 月　企画展「渡辺花苔水彩画展　～松之山旅情と日本の郷愁～」、「キノコ展」
10 月　第 11 回里山学会「土の中の虫、自然、子ども」
11 月　第 3 回こども里山学会
12 月　企画展「松之山豪雪展」、「島田国彦・芦田久　野鳥写真展」
2006 年　3 月　平成 15ー17 年度研究成果発表会
4 月　**総務省委託研究戦略的情報通信研究開発制度 (SCOPE) スタート**
企画展「松之山野鳥展」
7 月　第 3 回大地の芸術祭　企画展「巨大昆虫探査艇キョロロ号『life-size』」
カエルフォーラム
9 月　**入館者数 10 万人達成**
10 月　企画展「佐藤一善写真展　～吾が故郷松之山～」、「キノコ展」
11 月　第 4 回こども里山学会
12 月　第 12 回里山学会「お米の付加価値と生き物の多様性　ー産地米のブランド化に向けてー」
2007 年　2 月　企画展「田辺洋一写真展　～光と陰　松之山光彩～」
5 月　企画展「ブナ展・眞鍋英敏アカショウビン写真展」、「山菜展」
第 13 回里山学会「里山・里人が元気であるために　ー今、地域を見なおす様々な視点ー」
7 月　企画展「むし・虫・ムシ展」、「クワガタ・カブトムシ展」
10 月　企画展「十日町だいじんがぁ自慢大会」
11 月　里山学会特別企画「世界の農業と日本の農業」世界平和 7 人委員会講演会
第 5 回こども里山学会
12 月　企画展「松之山豪雪展　～雪の科学と雪国の文化～」
2008 年　2 月　**農林水産省補助事業　農業用水水源地域保全対策事業スタート**
企画展「『日本の昆虫採集の父』志賀夘助追悼展」、「山菜展」
7 月　企画展「森を支える小さな戦士　～落ち葉の下のいきもの展～」
8 月　第 15 回里山学会「土から地球を考える」
10 月　企画展「不思議なうず巻き　カタツムリ」、「キノコ展」
第 6 回こども里山学会
12 月　企画展「豪雪展」
2009 年　2 月　第 1 回つまり市民里山学会
3 月　企画展「舘野鴻　絵本『しでむし』原画展　＋　子育てをするムシたち展」、「山菜展」
4 月　里山のめぐみ案内人の会発足
7 月　第 4 回大地の芸術祭　企画展「虫熱い夏の好奇心　ーむし・虫・夢視ー」、「クワガタ・カブトムシ展」
入館者数 15 万人達成
10 月　企画展「越後妻有の棚田展」
全国棚田サミット in 十日町
11 月　企画展「美人林　佐藤一善写真展」、「キノコ展」
12 月　第 7 回こども里山学会
2010 年　2 月　第 2 回つまり市民里山学会
3 月　企画展「意外にいっぱい　川の虫展」、「山菜展」
7 月　企画展「虫たちのばかし術」、「クワガタ・カブトムシ展」
10 月　企画展「雪里のブナ展　ー日本三大ブナ林・美人林の美にせまるー」、「キノコ展」
入館者数 20 万人達成
11 月　第 16 回里山学会「十日町市発ブナ発見の旅　ー世界・日本・十日町のブナの不思議ー」
12 月　第 8 回こども里山学会
2011 年　2 月　第 3 回つまり市民里山学会
4 月　企画展「どくとるマンボウ昆虫展」、「山菜展」
7 月　企画展「クワガタ・カブトムシ展」
10 月　企画展「雪展　新発見・再発見・珍発見」
11 月　第 9 回こども里山学会
2012 年　2 月　第 17 回里山学会 (雪シンポジウム in 十日町)「雪のめぐみを活かした地域活性化策」
第 4 回つまり市民里山学会
4 月　企画展「美人林　佐藤一善写真展」
企画展「野に咲く花のように　藤井ふみよ絵画展」
7 月　第 5 回大地の芸術祭　企画展「キョロロの森のなかまたち」
企画展「クワガタ・カブトムシ展 2012」
入館者数 25 万人達成
9 月　**入館者数 30 万人達成**
10 月　企画展「雪・森・農・里展　～くるくるめぐる　ゆきざとのめぐみ～」
11 月　第 18 回里山学会「雪里から持続可能な社会づくりについて考えよう」
12 月　第 10 回こども里山学会
2013 年　3 月　第 5 回つまり市民里山学会
7 月　企画展「キョロロ大昆虫展」
10 月　企画展「みんなでつくった雪里大図鑑」、開館 10 周年記念植樹
11 月　第 19 回里山学会「雪里の小さな博物館が地域のためにできること」
開館 10 周年記念式典・記念講演会 (兼第 19 回里山学会)・記念祝賀会
12 月　第 11 回こども里山学会
2014 年　3 月　第 6 回つまり市民里山学会

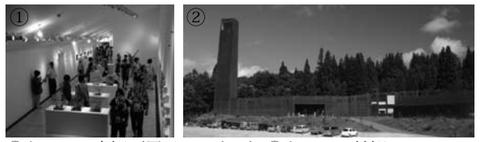
施設概要

建物概要

・名　　称　越後松之山「森の学校」キョロロ
・建物延床面積　1277 ㎡　　・竣工式　平成 15 年 6 月 24 日　　・開館日　平成 15 年 7 月 20 日
・設　計　者　手塚貴晴＋手塚由比　　・設　置　者　十日町地域広域事務組合
・施 設 内 容　展望室、展示コーナー、志賀夘助蝶コレクション、キョロロホール、食文化体験工房、研究室など

建物は手塚貴晴＋手塚由比両氏によって設計され、総重量 2000 t の耐候性鋼板（コールテン鋼）を使った長さ 160m に及ぶ建築物です。建物表面の赤茶けた色は耐候性鋼板の錆びの色で、錆びが保護膜となり腐食が内部まで届かない性質を有します。冬季には積雪により巨大な荷重がかかりますが、館は 5m の積雪のもと 1 ㎡あたり 1.5t の荷重を想定され造られています。さらに、全溶接の鉄板で出来ているため、表面温度は年間を通じて 80℃近くも温度差があり、夏と冬で 20cm 近くも長さが変わります。このような変形に対して、周囲の鉄板は基礎にはへばりつかず水平方向へ滑る構造により建物形状を活かした変形をし、その温度応力、変形を抑えています。



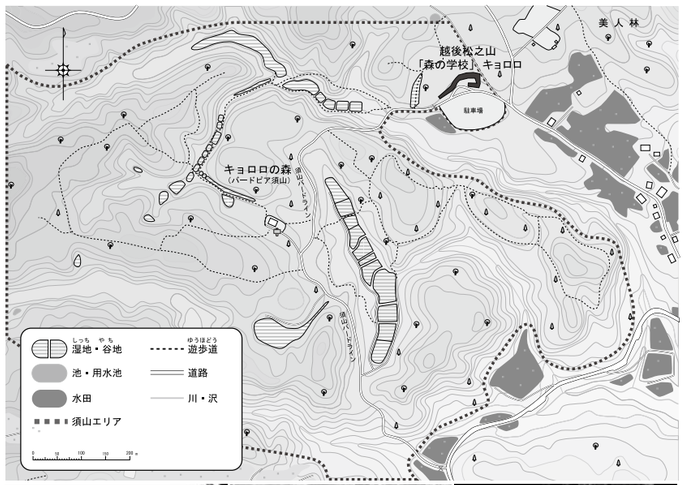


①キョロロ内観（展示コーナー）、②キョロロ外観

付属施設概要

・名　　称　キョロロの森（バードピア須山）
・所　在　地　新潟県十日町市松之山地域　須山地区
・総　面　積　約 80ha

館に隣接する須山地区は、昔から地域の住民が耕作地、植林地、薪炭林として、また山菜やキノコ狩りなどをして利用してきました。しかし、近年の農林業情勢や生活の変化により田畑の耕作放棄が進み、植林後管理されない杉林などが目立ってきました。そこで、1993 年頃から地域住民と松之山野鳥愛護会が須山の自然を残すため遊歩道の草刈を始めたところ、自然観察や野鳥観察のフィールドとして多くの自然愛好家が足を運ぶようになり、「バードピア須山」と名づけられました。1998 年、松之山町ではニューにいがた里創プラン・越後妻有アートネックレス整備事業の松之山ステージを須山に指定し、2000 年、「自然と共生の森整備特別対策事業」を導入し、湿地帯の保全や植栽林、雑木林の整備を行なってきました。2003 年、越後松之山「森の学校」キョロロの開館にあわせ、観察フィールド「キョロロの森」として開園し、自然観察、イベント開催、研究フィールドとして広く利用されています。



①探鳥会、②里山探検イベント、③モリアオガエルの産卵

第２章

活動記録

常設展示

キョロロには、地域の自然はもとより、大地の芸術祭のアート作品や市民との協働によって作られた展示物、豪雪地の暮らしやものづくりを体験できるコーナーなど、通常の自然史博物館とは一風異なる展示が常設されており、雪国の里山の魅力を多角的に来館者に伝えています。

大地の芸術祭　アート作品

大地の芸術祭の拠点施設のひとつであるキョロロには、キョロロの建物自体を含めて、館内外に 8 つのアート作品が常設されています。これらの作品を鑑賞するために、大地の芸術祭期間を中心に多くの方々が市内外から訪れています。

メタモルフォーゼ　～場の記憶～

①「**足下の水（200m³）**」 **遠藤利克**　［ 制作年 ］2003 年　［ 場所 ］野外
②「**松之山プロジェクト**」 **川俣正**　［ 制作年 ］2000 年、2003 年、2006 年　［ 場所 ］野外
③「**キョロロの Tin-Kin-Pin - 音の泉**」 **庄野泰子**　［ 制作年 ］2003 年　［ 場所 ］館内
④「**ネイチャーウォーク**」 **ジェニー・フォルツァー**　［ 制作年 ］2003 年　［ 場所 ］野外
⑤「**life size**」 **橋本典久＋SCOPE**　［ 制作年 ］2006 年　［ 場所 ］館内、野外（企画展時）
⑥「**大地、水、宇宙**」 **逢坂卓郎**　［ 制作年 ］2003 年　［ 場所 ］館内
⑦「**『森の学校』キョロロ**」 **手塚貴晴＋由比**　［ 制作年 ］2003 年　［ 場所 ］建物
⑧「**メタモルフォーゼ　～場の記憶～**」 **笠原由起子＋宮森はるな**　［ 制作年 ］2003 年　［ 場所 ］館内

志賀夘助　蝶コレクション　（＊開館時より常設化）

志賀夘助 蝶コレクション

松之山出身で、「日本の昆虫採集の父」とも評される志賀夘助氏から寄贈いただいた世界の蝶コレクションおよそ 3,800 点のうちの一部をアーティスティックに展示したコーナーです。現在ではワシントン条約によって取引が禁止されたチョウや絶滅危惧種に指定されるチョウも含まれるなど、学術的にも貴重なコレクションとなっています。また、同氏の開発した昆虫採集用具や標本作製用具、同氏の 104 年の歩みを記した年表なども展示しています。

森の水族館　（＊2003 年より常設化）

雪国の里山の水生生物の多様性を実感することができる生体展示コーナーです。シナイモツゴやカジカなどの魚類やカエルの仲間を中心とした両生類、ゲンゴロウをはじめとする水生昆虫などの生きた姿を一年を通じて見ることができます。また、ザリガニ釣りコーナーや生き物に触れ合えるスペースも併設されています。夏休み期間中には、野外で採集したバッタなどの昆虫を餌として森の水族館のカエルたちに与えてもらう、「カエルの給食当番」という餌やり体験イベントも実施しています。

森の水族館

実寸大積雪ポール　（＊2005 年より常設化）

年間の最大積雪深の平均が 3 メートルを超える世界有数の豪雪地、松之山の積雪量を体感することができる展示です。過去 33 年の年間最大積雪深を、実寸大のポールで示しています。

実寸大積雪ポール

古民家地炉端　（＊2004 年より冬期間に常設化）

豪雪地の古民家の地炉端を再現した展示コーナーです。冬季は囲炉裏に火が入り、雪国の里山ならではの料理を味わうことができるなど、豪雪地の冬の暮らしを実際に体験することができます（P25 参照）。

ダイジンガー

ダイジンガー　（＊開館時より常設、2009 年よりリニューアル）

十日町市民が発見した有形無形のお宝の情報をインターネットを使って集め、データベース化した「住民みんなの地域のお宝マップ」です。ダイジンガーとは「だいじんがぁ」（大事なもの）という方言から名付けられました。

びっくりボックス

びっくりボックス　（＊2005 年より常設化）

松之山の自然物や民具などのうち、驚くような感触のものが入った箱で、手触りで箱の中身を来館者に当ててもらう体験型の展示です。

おもしろボックス

おもしろボックス　（＊2003 年より常設化）

十日町市民がそれぞれにとってのお宝や創作した作品を持ち寄り、引き出しに入れて展示する住民参加型の展示コーナーで、来館者が引き出しを自由に開け、手にとって見ることができます。生き物の標本や古い道具、手作りのおもちゃ、木工作品など、展示物は多岐にわたります。

棚田のジオラマ

棚田のジオラマ　（＊2009 年より常設化）

棚田の四季や米づくりの様子、森や棚田の役割などについて、動きのあるジオラマと音声解説によって学ぶことができる展示です。

かやぶき小屋

チャレンジ工房　（＊2003 年より常設化）

里山から伐ってきた天然の木々を使って、来館者が自分だけの作品を自由に作ることができる体験コーナーです。また、冬季には正月飾りづくりなど、様々なものづくり体験イベントの舞台にもなります（P25 参照）。

かやぶき小屋　（＊2005 年より常設化）

松之山の伝統的な農村風景のひとつである茅葺き小屋（山小屋）を再現した展示物です。キョロロの森の広場に設置されています。

企画展示（2003 ～ 2007）

世界有数の豪雪地である十日町市特有の里山を様々な切り口で紹介する企画展を開催し、地域の魅力を市内外に発信してきました。里山の自然をテーマとした科学的な視点の企画展は勿論、里山での人の暮らしや文化をテーマとした企画展、里山の美しい風景や多様な動植物などをテーマとした写真展や絵画展なども開催してきました。ここでは過去 10 年間に開催された主な企画展を紹介します。

2003 年

アボリジニ現代美術展　［ 精霊たちのふるさと ］

（2003 年 7 月 20 日～ 9 月 7 日、越後松之山「森の学校」キョロロ開館記念特別展）

［ **概要** ］アボリジニ民族の絵画、彫刻など 40 点余りを全館を使って展示した。　［ **主な展示物** ］絵画、彫刻
［ **主催** ］オーストラリア・アボリジニ現代美術展実行委員会、メルボルン博物館　［ **共催** ］松之山町

日本の原風景　越後松之山展　（2003 年 10 月 1 日～ 10 月 30 日）

［ **概要** ］2002 年松之山フォトコンテストの優秀作品 46 点を展示した。
［ **主な展示物** ］松之山フォトコンテスト優秀作品写真　［ **主催** ］松之山町　［ **共催** ］松之山観光協会

2004 年

高橋勝彦写真展　～心象松之山私景～　（2004 年 4 月 15 日～ 5 月 17 日）

［ **概要** ］「いつまでもこの景色を」と高橋氏の願いが込められた写真 40 点を展示した。
［ **主な展示物** ］高橋勝彦氏 写真

熊田千佳慕昆虫絵画展　～命が宿る絵本の世界～

（2004 年 7 月 9 日～ 9 月 26 日）

［ **概要** ］日本を代表する昆虫画家、熊田千佳慕氏の昆虫絵画 65 点を、モチーフとなった昆虫の標本と共に展示した。
［ **主な展示物** ］熊田千佳慕氏 昆虫絵画、商業用作品、昆虫標本　［ **共催** ］㈱有隣堂

熊田千佳慕展　ポスター

坂部子一写真展　～望郷松之山路～　（2004 年 10 月 1 日～ 11 月 28 日）

［ **概要** ］松之山の人と自然のつながりをみつめた坂部子一氏の写真約 50 点を展示した。
［ **主な展示物** ］坂部子一氏 写真

松之山豪雪文化展　（2004 年 12 月 1 日～ 2005 年 4 月 10 日）

［ **概要** ］世界有数の豪雪地、松之山の冬の暮らしや文化を写真や民具の展示、伝統工芸の実演などを通して紹介した。
［ **主な展示物** ］松之山の冬の生活の写真、冬の民具、地炉、伝統工芸の実演

2005 年

日本一の昆虫屋　「志賀夘助展」　～夘助氏の人生と世界のチョウコレクション～

（2005 年 5 月 1 日～ 7 月 10 日）

［ **概要** ］日本の昆虫採集の父、志賀夘助氏の世界のチョウの標本や開発した昆虫採集道具、標本作成道具などを展示した。
［ **主な展示物** ］世界のチョウの標本、昆虫採集および標本作成用具

志賀夘助展　ポスター

カエルの王国　～松之山カエル展～　（2005 年 7 月 16 日～ 9 月 19 日）

［ **概要** ］里山の代表的な生物であるカエルを生体や写真の展示などを通して紹介し、里山の大切さを訴えた。
［ **主な展示物** ］松之山と世界のカエルの生体、吉村雅子氏 カエル写真、カエルアート、カエルの鳴き声

渡辺花苔水彩画展　～松之山旅情と日本の郷愁～　（2005 年 9 月 23 日～ 12 月 4 日）

［ **概要** ］渡辺和枝氏の絵画約 50 点を展示した。　［ **主な展示物** ］渡辺花苔氏 絵画

キノコ展　（2005 年 9 月 23 日～ 12 月 4 日）

［ **概要** ］松之山で見られるキノコの生体や標本などの展示を通して、キノコの生態や人との関わりを紹介した。
［ **主な展示物** ］キノコの生体およびフリーズドライ標本、キノコグッズ、キノコの香り体験瓶

松之山豪雪展　～雪の科学と雪国の文化～　（2005 年 12 月 10 日～ 2006 年 4 月 9 日）

［ **概要** ］2004 年度の豪雪文化展の内容に、雪の科学についてのコーナーを加えて展示した。
［ **主な展示物** ］実寸大積雪ポール、雪崩再現装置、雪の結晶標本、松之山の冬の生活の写真、冬の民具、地炉

2006 年

松之山野鳥展　（2006 年 4 月 27 日～ 7 月 9 日）

［ **概要** ］松之山に生息する野鳥の魅力や松之山野鳥愛護会の野鳥保護活動などを、写真などを通して紹介した。
［ **主な展示物** ］島田国彦氏 写真、芦田久氏 写真、松之山野鳥愛護会コーナー（松之山探鳥会 50 回の歩み、期間中の野鳥観察記録他）

巨大昆虫探査艇キョロロ号「life-size」

（2006 年 7 月 15 日～ 10 月 1 日、大地の芸術祭特別企画展）

［ **概要** ］橋本典久＋SCOPE の超高解像度人間大昆虫写真「life-size」をキョロロの館内外に展示した。
［ **主な展示物** ］超高解像度人間大昆虫写真パネル

巨大昆虫探査艇キョロロ号　ポスター

佐藤一善写真展　～吾が故郷 松之山～

（2006 年 10 月 7 日～ 2007 年 2 月 5 日）

［ **概要** ］松之山を代表する写真家、佐藤一善氏の松之山の風景や人の暮らしをテーマとした写真を展示した。
［ **主な展示物** ］佐藤一善氏 写真

田辺洋一写真展　～光と陰　松之山光彩～　（2007 年 2 月 10 日～ 4 月 30 日）

［ **概要** ］松之山出身の写真家、田辺洋一氏による松之山の写真を展示した。
［ **主な展示物** ］田辺洋一氏 写真

2007 年

ブナ展・眞鍋英敏アカショウビン写真展　（2007 年 5 月 1 日～ 7 月 8 日）

［ **概要** ］十日町市の木、ブナを様々な角度から紹介する企画展と眞鍋英敏氏のアカショウビンの写真展を同時に開催した。
［ **主な展示物** ］ブナ写真、ブナ実物（実、葉、稚樹など）、眞鍋英敏氏 アカショウビン写真と映像

むし・虫・ムシ展　～身近には、こんなに虫がいる！～　（2007 年 7 月 14 日～ 9 月 30 日）

［ **概要** ］身近な昆虫約 50 種類の生態展示や昆虫採集用具などの展示を通して、その魅力や不思議を紹介した。
［ **主な展示物** ］十日町市の昆虫標本、昆虫の生態展示、世界のクワガタ・カブトムシ生体展示および標本展示

十日町市だいじんがぁ自慢大会　（2007 年 10 月 6 日～ 12 月 2 日）

［ **概要** ］十日町市民に呼びかけて集まった「だいじんがぁ（大事なもの）」を展示した。
［ **主な展示物** ］市民から集められた写真や絵画、ものなど。

だいじんがぁ自慢大会ポスター

松之山豪雪展　（2007 年 12 月 8 日～ 2008 年 4 月 13 日）

［ **概要** ］世界有数の豪雪地である松之山の生活や文化、雪の科学、雪国ならではの動植物などについて展示した。
［ **主な展示物** ］松之山の冬の生活の写真、冬の民具、地炉、雪虫標本、雪の結晶標本、冬芽

企画展示 (2008 ～ 2012)

2008 年

「日本の昆虫採集の父」志賀夘助追悼展 （2008 年 4 月 2 日～ 7 月 13 日）

[**概要**] 志賀夘助氏の一周忌にあたり、世界のチョウのコレクション 3,800 点や開発した採集用具などを展示した。
[**主な展示物**] 世界のチョウの標本、昆虫採集および標本作成用具、志賀夘助氏 年表

森を支える小さな戦士　～落ち葉の下のいきもの展～

（2008 年 7 月 16 日～ 9 月 15 日）

[**概要**] 土壌動物の多様性とその役割について、標本や模型、様々な体験型展示を通して紹介した。
[**主な展示物**] 土壌動物標本、段ボール製巨大土壌動物模型、土壌動物の数体感トンネル、皆越ようせい氏 土壌動物写真、クイズボックス

落ち葉の下のいきもの展
ポスター

不思議なうず巻き　カタツムリ （2008 年 10 月 11 日～ 11 月 30 日）

[**概要**] 十日町市で採集された生体や標本の展示を通してカタツムリの魅力を紹介した。
[**主な展示物**] カタツムリ標本や生体、カタツムリの映像、カタツムリグッズ

豪雪展 （2008 年 12 月 13 日～ 2009 年 3 月 29 日）

[**概要**] 世界有数の豪雪地である松之山の生活や文化、雪の科学、雪国ならではの動植物などについて展示した。
[**主な展示物**] 松之山の冬の生活の写真、冬の民具、地炉、雪虫標本、雪の結晶標本、冬芽

2009 年

舘野鴻　絵本「しでむし」原画展＋子育てをする虫たち展 （2009 年 3 月 28 日～ 7 月 12 日）

[**概要**] 絵本作家、舘野鴻氏の絵本「しでむし」の原画展と、子育てをする昆虫についての企画展を同時開催した。
[**主な展示物**] 舘野鴻氏 絵本原画、子育てをする昆虫の生体や写真、革製の昆虫模型、ベニツチカメムシ双六

虫熱い夏の好奇心　～むし・虫・夢視～（2009） （2009 年 7 月 26 日～ 9 月 13 日、大地の芸術祭特別企画展）

[**概要**] 昆虫をモチーフとした木村政司氏と日本大学芸術学部の学生たちのアート作品を展示した。
[**主な展示物**] 木村政司氏 サイエンティフィック・イラストレーション、日本大学芸術学部 キマイラ昆虫

越後妻有の棚田展 （2009 年 10 月 10 日～ 11 月 29 日）

[**概要**] 日本の原風景と言われる十日町市の棚田とそこでの動植物や人の営みなどを紹介し、棚田の重要性を訴えた。
[**主な展示物**] 棚田ジオラマ、農具、イネ生体、はさかけゲート　[**備考**] 酒井英次絵画展　民俗の風景「中越の棚田」を同時に開催。

越後妻有の棚田展　ポスター

美人林　佐藤一善写真展 （2009 年 11 月 14 日～ 2010 年 3 月 22 日）

[**概要**] 美人林写真の第一人者、佐藤一善氏の力強く美しい写真の数々を展示した。
[**主な展示物**] 佐藤一善氏 写真

2010 年

意外にいっぱい　川の虫展 （2010 年 3 月 27 日～ 7 月 4 日）

[**概要**] トビケラ、カワゲラなど、川に生息する虫の多様性や環境との繋がり、人との関わりについて紹介した。
[**主な展示物**] 昆虫標本、巨大カワゲラ模型、トビケラスーツ、高解像度写真パネル

虫たちのばかし術 （2010 年 7 月 17 日～ 9 月 26 日）

[**概要**] 美しい自然を生き残るための生物たちの擬態を、昆虫や両生類などの生体や標本を通して紹介した。
[**主な展示物**] 擬態する昆虫や両生類、爬虫類などの生体および標本、擬態する生き物さがしジオラマ

雪里のブナ展　～日本三大ブナ林・美人林の美にせまる～

（2010 年 10 月 2 日～ 2011 年 7 月 3 日）

[**概要**] 十日町市の木であるブナの生態や人との関わりなどを様々な視点から紹介し、その魅力と重要性を伝えた。
[**主な展示物**] ブナのまたたき (鈴木康広氏 アート作品)、全国のブナの葉っぱの大きさ比較装置、ブナ林写真コンテスト (一般公募)、ブナの種生き残りパチンコ

雪里のブナ展　ポスター

2011 年

どくとるマンボウ昆虫展 ～「どくとるマンボウ昆虫記」刊行 50 周年～

（2011 年 4 月 23 日～ 6 月 19 日）

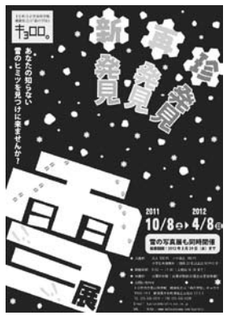
[**概要**] 北杜夫氏の名著「どくとるマンボウ昆虫記」の文中に登場する昆虫を、標本と共に紹介した。
[**主な展示物**] 昆虫標本、北杜夫氏 著書　[**備考**] 期間中に「どくとるマンボウ昆虫記」語り会、新潟県産ギフチョウ展を開催　[**共催**] 日本昆虫協会、栃木県県民の森マロニエ昆虫館

クワガタ・カブトムシ展 （2011 年 7 月 16 日～ 9 月 25 日）

[**概要**] 松之山と世界のクワガタ・カブトムシの多様性や地域固有性を生体や標本展示を通して紹介した。
[**主な展示物**] クワカブルーム、クワガタ・カブトムシの生体や標本、お絵描きコーナー

雪展　～新発見・再発見・珍発見～ （2011 年 10 月 8 日～ 2012 年 4 月 8 日）

[**概要**] 十日町市の自然と文化の基盤ともいえる雪について、様々な体験型展示や写真などを通して紹介した。
[**主な展示物**] 雪にまつわる写真（一般公募）、雪原の生き物さがしプール、ダイヤモンドダスト発生装置、冬の民具、カエル・ヘビの冬眠展示



雪展　ポスター

2012 年

美人林　佐藤一善写真展 （2012 年 4 月 14 日～ 7 月 20 日）

[**概要**] 佐藤一善氏による美しい美人林の写真を、ブナの科学的な解説や体験型展示と共に展示した。
[**主な展示物**] 佐藤一善氏 美人林写真、ブナ実物（実、葉、稚樹など）、クイズボックス

「野に咲く花のように」 藤井ふみよ展 （2012 年 4 月 14 日～ 7 月 1 日）

[**概要**] 十日町市松代出身の画家、藤井ふみよ氏の地域の植物をテーマとした優しく美しい絵画を展示した。
[**主な展示物**] 藤井ふみよ氏 植物絵画

キョロロの森のなかまたち （2012 年 7 月 29 日～ 9 月 17 日、大地の芸術祭特別企画展）

[**概要**] 十日町市の動植物をテーマとした 5 人のアーティストの作品を展示した。
[**参加アーティスト**] 岩井はるか氏、新野洋氏、富田菜摘氏、樋口明宏氏、高橋士郎氏

クワガタ・カブトムシ展 2012 （2012 年 7 月 14 日～ 9 月 17 日）

[**概要**] 松之山と世界のクワガタ・カブトムシの多様性や地域固有性を生体や標本展示を通して紹介した。
[**主な展示物**] クワカブルーム、クワガタ・カブトムシの生体や標本、お絵描きコーナー

雪・森・農・里展　～くるくるめぐる雪里のめぐみ～

（2012 年 10 月 13 日～ 2013 年 6 月 30 日）

[**概要**] 豪雪地特有の里山「雪里」における人と自然の営み、それらがもたらす恵みについて様々な角度から紹介した。
[**主な展示物**] 雪里の水の旅装置、鳥類・哺乳類剥製標本、昆虫標本、伝統的な農具や民具、循環パラパラ漫画装置

雪・森・農・里展　ポスター

体験イベント

体験を重視するキョロロにおいて体験イベントは最も重要な事業のひとつです。キョロロ開館以来、里山の自然や文化を五感で体験できる様々なイベントが企画・実施されてきました。また、これらのイベントで実施している体験プログラムの一部は、十日町市内の小中学校や越後田舎体験の受入れ校を対象とした学習支援活動の中でも提供されています。さらに、キョロロの研究員が市民と共に行う市民協働調査も、地域の自然の基礎情報の解明や参加者の自然に対する興味関心の向上などに重要な役割を果たしています。ここでは、キョロロが主催してきた主なイベントを紹介します。

自然体験イベント

キョロロに隣接する自然体験フィールド「キョロロの森」を主な舞台として、雪国の里山の自然や動植物、農林業などをテーマとした様々な自然体験イベントが実施されてきました。

里山の生き物探検、里山のめぐみ体験

「里山の生き物探検」は、学芸員や研究員などがインストラクターとして同行し、参加者に里山の自然を五感で楽しんでもらう自然体験イベントです。キョロロの森の森林や水辺に生息する節足動物や両生類、魚類などを実際に網を使って採集・観察したり、スノーシューを履いて雪原で生活する生物やその痕跡を探したりと、季節や担当インストラクターの専門分野などに応じた観察テーマを設けて実施してきました。また、里山の達人たちと共に、「山菜」や「キノコ」といった季節ごとの里山のめぐみを採集・調理して味わうイベントも毎年開催しています。

水辺の生き物さがしの様子

スノーシューを履いて雪原散策

これらのイベントは年齢や経験を問わず、楽しみながら里山の動植物の多様性や繋がりを実感できる内容となっており、親子連れをはじめ、毎年、多くの方々に参加していただいています。

昆虫関連イベント

小中学生の夏休みの時期にあわせて、「昆虫標本づくり講座」や「昆虫解剖講座」といった自由研究支援プログラムや、ライトトラップに集まる虫の観察会である「夜の昆虫探検」など、昆虫をテーマとした様々なイベントを開催しています。キョロロには開館以来、昆虫の生態や分類を専門とする学芸員や研究員が常駐しており、専門性の高いプログラムを利用者に提供してきました。

昆虫標本づくり講座

米づくり体験、森づくり体験

田植え体験

雪国の里山を維持していく上で欠かすことができない人の営みへの理解を深めてもらうため、「田植え」、「田の草取り」、「稲刈り」といった米づくり体験イベントや、「植樹」をはじめとする森づくり体験イベントを開催してきました。

近年では、里山における樹木の多様性と利用方法をテーマとした樹木観察イベントなども実施し、里山における人と自然のつながりへの理解の向上を図っています。

文化体験イベント

雪国の里山文化の保全や伝承を目的として、里山ならではの自然素材や伝統的な技を用いたものづくりや、一昔前の雪国の暮らしや祭事を体験できるイベントなどを実施してきました。

ものづくり体験

木工体験の様子

里山の木々や木の実などを自由に使って、自分だけの作品を作ることができる「木工体験」は、親子連れの利用者などに大人気の定番プログラムとなっています。また、里山のものづくりの達人たちを講師として招き、「わら草履づくり」、「あんぼづくり」、「正月飾りづくり」、「味噌玉づくり」などのものづくり体験イベントも開催してきました。

豪雪地の暮らし体験

キョロロでは毎年冬になると地炉端が開設され、地炉で温まりながら大根煮やあんぼ、串餅、甘酒などといった、昔ながらの豪雪地の里山の味を来館者に楽しんでもらっています。また、地域住民の協力のもと、「集落間でのけんちん汁の食べくらべ」イベントや、豪雪地ならではの遊び、「ケツぞり」を楽しめるコースの開設なども行ってきました。

地炉端の様子

冬の伝統祭事イベント

若木迎えの様子

少子高齢化や過疎化、近年の生活様式の変化などによって失われ、忘れられつつあった地域の伝統祭事を、地域住民の協力を仰ぎながらイベントとして実施してきました。山仕事の無事を祈る祭事である「若木迎え」や「十二講」、豊穣を祈願する予祝行事「花餅祭り」などの行事をキョロロ開館初期から、毎年開催しています。

市民協働調査

十日町市に生息する動植物の種類相や生態の解明、それらの活用方法の開発などを目的として、研究員などが市民と協働で行っている調査イベントです。キョロロの活動の基盤となる地域の自然の基礎情報や資料の収集に有益であると同時に、身近な自然に対する市民の興味関心や理解の向上にも繋がっています。これまでに定期イベントとして実施されてきた市民協働調査を以下に記します。

探鳥会　[期間]2003* ～ 2013 年　[共催] 松之山野鳥愛護会

＊キョロロとの共催期間のみを示した。探鳥会自体は、松之山野鳥愛護会によって 1953 年から実施されている。

棚田の生き物調査　[期間]2004 ～ 2007 年
花ごよみ調査　[期間]2007 ～ 2013 年　[共催] 松之山自然友の会
チョウ調査　[期間]2008 ～ 2010 年　[共催] 松之山野鳥愛護会
オトシブミ調査　[期間]2009 年
ブナ林調査　[期間]2011 ～ 2013 年
トンボ調査　[期間]2011 年
アリ調査　[期間]2012 ～ 2013 年　[共催] 松之山自然友の会
雪虫調査　[期間]2012 ～ 2013 年
ブナの森のようちえん　[期間]2013 年

花ごよみ調査の様子

市民講座・学会

キョロロでは地域の自然や文化に対する市民の興味関心の向上や理解の深化、地域資源の発掘などを目的として、里山学会、こども里山学会、つまり市民里山学会の３つの学会をはじめ、様々な市民向けの講演会や市民学会を開催してきました。

里山学会

里山の自然や文化についての研究に携わる専門家などを講師として招いて行う市民講座です。最先端の研究成果などについて分かりやすく講演してもらうことで、地域住民に地域の魅力を再発見してもらうこと、地域の自然や文化の保全に対する意識を向上させることなどを目的として開催されてきました。キョロロ開館前年の 2002 年に第 1 回が開催されて以来、10 周年記念講演会 (P.34) を含めて 19 回を数えています。

第 16 回里山学会の様子

第 1 回「新・生物多様性国家戦略と里山」
［ 講師 ］鷲谷いずみ（東京大学大学院農学生命科学研究科）［ 年月 ］2002 年 8 月 28 日　［ 会場 ］松之山町民体育館

第 2 回「森林の水源かん養機能について」
［ 講師 ］服部重昭（名古屋大学大学院生命農学研究科）［ 年月 ］2002 年 11 月 1 日　［ 会場 ］松之山町民体育館

第 3 回「水田農業と共生してきた生物たちの世界」
［講師］日鷹一雅（愛媛大学農学部附属農場）［年月］2002 年 12 月 14 日　［会場］松之山町自然休養村センター

第 4 回「大学と里山：金沢大学『角間の里山自然学校』の試み」
［講師］中村浩二（金沢大学大学院自然科学研究科）［年月］2003 年 3 月 9 日　［会場］松之山町自然休養村センター

第 5 回「屋久島の自然と『屋久島オープンフィールド博物館』構想」
［ 講師 ］湯本貴和（総合地球環境学研究所）［ 年月 ］2003 年 6 月 28 日　［ 会場 ］キョロロ

第 6 回「美人林を考える」
［ 講師 ］紙谷智彦（新潟大学農学部）［ 年月 ］2003 年 10 月 25 日　［ 会場 ］キョロロ

第 7 回「木材の形状記憶」
［ 講師 ］祖父江信夫（静岡大学農学部）［ 年月 ］2004 年 3 月 27 日　［ 会場 ］キョロロ

第 8 回「里山に息づく昆虫たち」
［ 講師 ］石井実（大阪府立大学大学院農学生命科学研究科）［ 年月 ］2004 年 7 月 31 日　［ 会場 ］キョロロ

第 9 回「キノコの世界」　＊中越地震発生のため中止
［ 講師 ］大政正武（信州大学農学部）［ 年月 ］2004 年 10 月 23 日　［ 会場 ］キョロロ

第 10 回「里山の現在とこれから －中山間地直接支払制度を利用した地域づくり－」
［ 講師 ］長濱健一郎（農政調査委員会）、鷲谷いずみ（東京大学大学院農学生命科学研究科）、山本徳司（農村工学研究所）［ 年月 ］2005 年 4 月 30 日　［ 会場 ］松之山総合体育館　［ 助成 ］(財) こしじ水と緑の会

第 11 回「土の中の虫、自然、子ども」
［講師］青木淳一（神奈川県立生命の星・地球博物館／横浜国立大学名誉教授）［年月］2005 年 10 月 21 日　［会場］キョロロ　［助成］理数大好きモデル地域事業

第 12 回「お米の付加価値と生き物の多様性　～産地米のブランド化に向けて～」
［ コーディネーター ］池内了（総合研究大学院大学）［ 講演者 ］桐谷圭治（日本応用動物昆虫学会 名誉会員）、鈴木秀之（米・食味鑑定士協会 会長）［ パネリスト ］田中富士雄 (グリーンハウス里美 代表)、 山岸勝（NPO 魚沼ゆうき 代表）、澤畠拓夫（㈱当間高原リゾート 研究員）［ 年月 ］2007 年 5 月 19 日　［ 会場 ］松之山自然休養村センター

第 13 回「里山・里人が元気であるために ～今、地域をみなおす様々な視点～」
［ コーディネーター ］高田直弘（三菱総合研究所）［ 講演者 ］鈴木秀之（米・食味鑑定士協会 会長）、朝田くに子（ローカルジャンクション 21 代表理事）、高橋樹男（松之山芽吹会、地球温暖化防止活動推進員）、嘉田良平（アミタ持続可能経済研究所 顧問）［ 年月 ］2007 年 5 月 19 日　［ 会場 ］松之山自然休養村センター　［ 主催 ］松之山野鳥愛護会

第 14 回（特別企画）「世界の農業と日本の農業」
［ 講師 ］井上ひさし（小説家、劇作家）、大石芳野（東京工芸大学芸術学部）［ コメンテーター] 伏見康治（理論物理学者）、小沼通二（慶応大学名誉教授）、池田香代子（作家、翻訳家）、池内了（総合研究大学院大学）［ 年月 ］2007 年 11 月 11 日　［ 会場 ］キョロロ　［ 主催 ］世界平和アピール七人委員会

第 15 回「土から地球を考える」
［ 講演者 ］福山研二（森林総合研究所）、金子信博（横浜国立大学大学院環境情報研究院）、皆越ようせい（自然写真家）［ パネリスト ］澤畠拓夫（キョロロ）［ コーディネーター ］村山暁　［ 年月 ］2008 年 8 月 9 日　［ 会場 ］キョロロ　［ 助成 ］農業用水水源地域保全対策事業

第 16 回「十日町市発ブナ発見の旅　－世界・日本・十日町市のブナの不思議－」
［ 講演者 ］小林誠（キョロロ）、斉藤均（黒松内町ブナセンター）、永幡嘉之（自然写真家）、本間航介（新潟大学農学部）、松井哲哉（森林総合研究所）、柳一成（ひなの宿千歳 / 松之山温泉合同会社まんま）［ コーディネーター ］村山暁（キョロロ）［ 年月 ］2010 年 11 月 6 日　［ 会場 ］松之山自然休養村センター　［ 助成 ］農業用水水源地域保全対策事業

第 17 回「雪のめぐみを活かした地域活性化策」
［ 講演者 ］井口智裕（雪国観光圏事務局プランナー /（株）いせん 代表取締役）、小口成一（里山のめぐみ案内人の会 代表）、伊藤亮司（新潟大学農学部）、上村憲司（津南町長）［ コーディネーター ］村山暁（キョロロ）［ 年月 ］2012 年 2 月 1 日　［ 会場 ］クロス 10（十日町地域地場産業振興センター）［ 備考 ］十日町市、日本雪工学会上越支部が主催する「第 27 回雪シンポジウム in 十日町」の 1 セッションとして開催。

第 18 回「『雪里』から持続可能な社会づくりについて考えよう」
［ 講演者 ］本間航介（新潟大学農学部）、大楽和正（新潟県立歴史博物館）、永野昌博（大分大学教育福祉科学部）［ パネリスト ］丸山定一（十日町市松之山浦田地区協議会長）［ コーディネーター ］村山暁（キョロロ）［ 年月 ］2008 年 8 月 9 日　［ 会場 ］松之山自然休養村センター

こども里山学会

十日町市内の小中学生が、総合学習などの時間に行った地域の自然や文化についての調べ学習の成果を発表し合い、学校間の交流を深めるための、子どもが主役の発表会です。キョロロが開館した 2003 年に第 1 回大会が開催されて以来、毎年 1 回開催されています。松之山、松代地域の小中学校を中心として、毎年 4 ～ 9 校の小中学校の子どもによる発表が行われています。

第 9 回こども里山学会の様子

つまり市民里山学会

第 2 回つまり市民里山学会の様子

妻有地域（十日町市と津南町）の自然を調査・研究している個人や団体が一堂に会して、その成果を伝え合い、交流を深めるための市民向けの学会です。2008 年に第 1 回大会が行われて以降、2013 年度までに 6 回開催されており、延べ 40 の個人や団体による発表が行われてきました。近年では、豪雪地の動植物相や生態についての調査・研究だけでなく、里山を活用した教育普及活動や保全への取り組みについての発表も行われるなど、その内容は広がりを見せています。

学芸員・研究員による講演会

キョロロでは、開館当初から学芸員や研究員の専門性を活かした市民向けの講演会が行なわれてきました。2003 年から 3 回にわたり開催された「キョロロ講座」や、2006 年に開催された「研究成果発表会」、企画展の関連イベントとして開催されたフォーラムやシンポジウムなど、過去、様々な形で学芸員・研究員の専門分野や研究内容についての話が市民に向けて行なわれてきました。2011 年からは研究員の研究内容や市民協働調査などの成果を市民に伝えるための講演会である「研究員ミニ講演会」が毎年行われています。

2011 年研究員ミニ講演会の様子

出版物

キョロロでは学芸員、研究員の専門性を活かして、十日町市の自然や文化についての学校・一般向けの普及啓発冊子、研究や教育実践の紀要、豊かな自然を観光資源として活用するためのパンフレットやガイドマップなど、様々な印刷物を出版してきました。ここでは主なキョロロの出版物を紹介します。

地域連携による農村ならではの学習展開

(独) 科学技術振興機構委託研究 平成 17 ～ 19 年度理数大好きモデル地域事業・事業実績報告書別冊 (実践集) 新潟県中越モデル地域

[発行年]2008 年
[編集] 理数大好き事業中越モデル地域実行委員会
[判型]A4 版、78 ページ
[発行] 十日町市教育委員会
[助成] 理数大好きモデル地域事業
[概要] 理数大好き中越モデル地域で 3 年間にわたり地域と学校が連携し、開発した学習プログラムの一部を実践事例と共にまとめた。

里山悠遊 ―松代・松之山里山案内人ガイド―

(独) 科学技術振興機構委託研究 平成 17 ～ 19 年度理数大好きモデル地域事業・事業実績報告書別冊 新潟県中越モデル地域

[発行年]2008 年
[編集] 理数大好き事業中越モデル地域実行委員会
[判型]A4 版、52 ページ
[発行] 新潟県教育委員会、十日町市教育委員会
[助成] 理数大好きモデル地域事業
[概要] 理数大好き中越モデル地域である松代、松之山の自然と豊かに関わるための知識や技能を持つ地域の達人たちを紹介した情報誌。

十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロ研究紀要

雪里研究 第 1 巻

[発行年]2009 年
[編集] 永野昌博、澤畠拓夫、畑田彩、村山暁
[判型]A4 版、100 ページ
[概要]2003 年度から 2005 年度までにキョロロの学芸員・研究員が中心となって行われた雪国ならではの里山、「雪里」の自然や文化についての調査・研究の成果をまとめた紀要。

雪・森・農のめぐみとつながりを考えるシリーズ①

森を支える小さな戦士 ～落ち葉の下の生き物たち～

[発行年]2009 年
[編集] 永野昌博、澤畠拓夫
[執筆] 澤畠拓夫、永野昌博、大脇淳、深沢知里、三上光一
[判型]A4 版、51 ページ
[助成] 農業用水水源地域保全対策事業
[概要] 森林の水源涵養機能を支える土壌動物の多様性や役割、調査方法などをわかりやすくまとめた。

雪・森・農のめぐみとつながりを考えるシリーズ②

棚田と生きる

[発行年]2009 年
[編集] 永野昌博、山岸洋貴、佐藤一善
[執筆] 山岸洋貴、永野昌博、大脇淳、深沢千里、小林誠、相沢堅
[判型]A4 版、52 ページ
[助成] 農業用水水源地域保全対策事業
[概要] 十日町市の景観を特徴づける棚田の役割やそこでの人々の営み、棚田が抱える問題や保全に向けての取り組みについてまとめた。

雪・森・農のめぐみとつながりを考えるシリーズ③

雪里のブナ林のめぐみ

[発行年]2011 年
[編集] 小林誠、永野昌博、伊藤千恵、村山暁
[執筆] 伊藤千恵、小林誠、永野昌博、鈴木誠司、澤畠拓夫、村山暁、鶴智之、石原正敏
[判型]A4 版、91 ページ
[助成] 農業用水水源地域保全対策事業
[概要] 十日町市の里山を象徴するブナ林を様々な視点から紹介し、その保全の重要性を伝えた。

雪・森・農のめぐみとつながりを考えるシリーズ④

雪 ～めぐみ降るさと～

[発行年]2012 年
[編著] 伊藤千恵、岩西哲、鶴智之、小林誠、村山暁
[判型]A4 版、48 ページ
[助成] 農業用水水源地域保全対策事業
[概要] 十日町市の自然や文化の基盤とも言える雪が私たちにもたらしている様々な恵みを紹介し、利雪に向けた新たな取り組みなどをまとめた。

雪・森・農のめぐみとつながりを考えるシリーズ⑤

雪里 ～世界一の雪が育んだ里山～

[発行年]2013 年
[編著] 岩西哲、小林誠、伊藤千恵、鶴智之、大楽和正、佐藤一善、村山暁
[判型]A4 版、62 ページ
[助成] 農業用水水源地域保全対策事業
[概要] 雪国ならではの里山である「雪里」における人と自然の営みや繋がり、雪里の生態系サービスなどを紹介し、雪里の保全の重要性を伝えた。

十日町市まつのやま ブナ林・棚田マップ

[発行年]2008 年
[編著] 澤畠拓夫、佐藤一善、永野昌博
[判型] パンフレット
[助成] 農業用水水源地域保全対策事業
[概要] 十日町市内のブナ林と棚田の見どころマップや、ブナ林や棚田の役割を掲載した。

ICT を活用して探して自慢しよう！十日町市のだいじなもの

ダイジンガープロジェクト

[発行年]2009 年
[編著] 永野昌博、三上光一、相澤堅、山本徳司、安中誠司、唐崎卓也、中平勝子
[判型]A4 版、10 ページ
[助成] 総務省戦略的情報通信研究開発制度
[概要]ICT を活用した地域資源発掘プロジェクトであるダイジンガープロジェクトについて紹介した。

十日町市松之山小谷・水梨 **旧高田街道** 花の散歩道ガイドマップ

[発行年]2009 年
[編著] 山岸洋貴、小口成一、村山祐一、永野昌博
[判型] パンフレット
[共催] 松之山自然友の会
[助成] 農業用水水源地域保全対策事業
[概要] 市民協働調査の結果に基づく松之山旧高田街道の花のガイドマップ。

十日町市松之山温泉 **薬湯の森** 花の散歩道ガイドマップ

[発行年]2010 年
[編著] 伊藤千恵、小口成一、村山祐一、小林誠、永野昌博
[判型] パンフレット
[共催] 松之山自然友の会
[助成] 農業用水水源地域保全対策事業
[概要] 市民協働調査の結果に基づく松之山温泉薬湯の森の花のガイドマップ。

ブナってどんな木？

[発行年]2012 年
[編著] 小林誠・伊藤千恵・鶴智之・鈴木誠治・永野昌博・村山暁
[判型] パンフレット
[助成] 農業用水水源地域保全対策事業
[概要] 美人林をはじめとする十日町市のブナ林の見所を、様々な視点から紹介したガイドブック。

キョロロの森の花ごよみ

＊季節に合わせた 4 つのバージョンがあります。

[発行年]2008 年
[編著] 三上光一、小口成一、村山祐一、永野昌博
[判型] パンフレット
[共催] 松之山自然友の会
[助成](財) こしじ水と緑の会
[概要] 市民協働調査の結果に基づくキョロロの森の花のガイドブック。

オトシブミをみつけよう！

[発行年]2009 年
[編著] 深沢知里、深沢遊、村山祐一、佐藤一善、永野昌博
[判型] パンフレット
[助成] 農業用水水源地域保全対策事業
[概要] 市民協働調査の結果に基づいて作成されたキョロロの森に生息するオトシブミのミニ図鑑。

十日町市のチョウ図鑑

[発行年]2010 年
[著者] 大脇淳、村山暁
[判型]B5 版、46 ページ
[共催] 松之山野鳥愛護会
[助成](財) こしじ水と緑の会
[概要] 市民協働調査の結果に基づいて作成された、十日町市に生息するチョウの検索図鑑。

十日町市松之山 **大松山** 花の散歩道ガイドマップ

[発行年]2011 年
[編著] 伊藤千恵、小口成一、村山祐一
[判型] パンフレット
[共催] 松之山自然友の会
[助成] 農業用水水源地域保全対策事業
[概要] 市民協働調査の結果に基づいて作成された松之山大松山の花のガイドマップ。

十日町市松之山 **大厳寺高原** 花の散歩道ガイドマップ

[発行年]2013 年
[編著] 伊藤千恵、小口成一、村山祐一、小林誠
[判型] パンフレット
[共催] 松之山自然友の会
[助成] 農業用水水源地域保全対策事業
[概要] 市民協働花ごよみ調査の結果に基づく松之山大厳寺高原の花のガイドマップ。

博物館資料

里山科学館であるキョロロは、昆虫標本をはじめとする自然史資料は勿論、地域の里山で古くから利用されてきた民具や農具などの民俗資料の収集と保存にも務めてきました。これらの資料の中には地域の方々から寄贈いただいたものも多く含まれます。収集された資料は、雪国の里山の自然や文化についての調査・研究に不可欠な情報をもたらすだけでなく、展示物や教材としても活用されるなど、キョロロの博物館活動を支えています。

自然史資料

十日町市には豪雪地の自然に人が働きかけることで生まれ、維持されてきた豊かな里山環境が今なお多く残されており、固有の生物相が育まれています。キョロロではスタッフによって収集されたり、市民から寄贈されたりした地域の動植物の標本を整理・保存し、十日町市の生物相や動植物の生態などを解明するための調査・研究に役立てている他、地域の自然環境の特徴や生物多様性を来館者に伝えるための展示物としても活用しています。

キョロロが収蔵する自然史資料の内訳

資料（生物標本）の種類	点数
昆虫類	約 15,000*
志賀夘助氏寄贈　世界のチョウ標本	約 3,800
岡部敏男氏寄贈　新潟県のギフチョウ標本	約 2,200
鳥類・哺乳類	約 40
魚類・両生類・爬虫類	約 30
植物類	約 900
キノコ類	約 30
合計	約 16,000

* 志賀夘助氏、岡部敏男氏からの寄贈標本を含めた所蔵するすべての昆虫標本の点数を示した。

新潟県のギフチョウ標本寄贈式の様子

展示での生物標本の活用

民俗資料

十日町市の里山地域では、他の地域では見ることができない豪雪地特有の雪に関連する民具や棚田地帯ならではの農具が利用されてきました。これらの民具や農具は、地域の伝統的な生活様式や人と自然との関わり方を調査・研究し、後世に伝えていくための貴重な資料となります。キョロロでは、十日町市松之山地域の住民に使われなくなった民具や農具の提供をお願いし、いただいた資料を整理・保存しています。

キョロロが収蔵する民俗資料の内訳

資料（民具・農具）の種類	点数
衣類や履物	121
農林業に関連する道具	69
除雪に関連する道具	23
食事に関連する道具	35
藁仕事に関連する道具	11
その他の道具	57
合計	316

展示 (左) や体験イベント (右) での民俗資料の活用

民俗資料の例。資料ごとに基本情報が記されたラベルを添付し、整理・保存している。

第 3 章

開館 10 周年記念事業の報告

開館 10 周年記念事業

平成 25 年 7 月 21 日に、開館以来満 10 年を経過した「森の学校」キョロロでは、4月から行ったコラボミュージアムを皮切りに、様々な開館 10 周年記念事業を行ってきました。本章では、それぞれの事業について、その内容や開催状況を紹介します。

コラボミュージアム

平成 25 年 4 月 1 日から 9 月 23 日までの期間、新潟県立自然科学館とのコラボミュージアム事業を行いました。コラボミュージアムとは、博物館などの文化・教育施設が協力して、お互いの資料や人材などを活用しコラボレーション（連携・協業）することで、相互にメリットとなるような活動を意味します。期間中は新潟県立自然科学館内の特設会場にて、シナイモツゴやメダカなどの里山の生き物の生体展示や、ビックリボックスなどの体験型展示を行いました。

新潟県立自然科学館で行ったキョロロの展示風景

国際博物館の日に参加

5 月 18 日は国際博物館会議 (ICOM) が 1977 年に定めた国際博物館の日となっています。キョロロは開館以来初めて国際博物館の日に参加し、平成 25 年 5 月 18 日に、来館者全員（未就学児を除く）に次回来館時に使用できる無料入館券を配布しました。

ブナの森のようちえん

「ブナの森のようちえん」は、今年度から新たに実施したイベントです。このイベントでは親子が一緒にブナの森の中で遊ぶことで、豊かな感性を育むことを目的としています。今年度は、6 月 1 日、8 月 3 日、11 月 2 日の 3 回を実施し、ボランティアスタッフを含め合計 113 人もの参加者がありました。

ブナの森のようちえんの様子

キョロロ大昆虫展 ～「森の学校」キョロロにアートと昆虫が大集合！～

アートと科学の両方から昆虫を体感できる企画展を、7 月 20 日から 9 月 16 日までの約 2 か月間開催しました。世界と十日町市の昆虫に関する展示では、カレハカマキリなどの世界各地の不思議な昆虫や、十日町市に生息する昆虫を生態展示すると共に、標本や解説を通して多様性や進化を学ぶことができる展示を行いました。昆虫アートの展示では、奥村巴菜さんによる陶器でできた昆虫アート「陶虫」などを展示しました。超高解像度人間大昆虫写真「life-size」を手掛ける橋本典久さんらの作品では、小さな昆虫の体に生える毛の 1 本 1 本まで見える巨大写真を館内外に展示しました。また会期中には、十日町市が生んだ昆虫博士の故樋熊清治先生が集めた昆虫コレクションも展示し、新潟県の自然保護活動に心血を注がれた樋熊先生の功績や調査の手法を紹介しました。さらに、日本のクワガタ・カブトムシにさわることができる夢空間「クワカブルーム」を今年度も開設しました。この他にも、昆虫に関するクイズやお絵かきコーナーなど、遊びながら学ぶことのできる展示を行いました。

ヒシムネカレハカマキリ

昆虫アートの展示作品

故樋熊清治先生の昆虫コレクション

こども一日館長

小学生を対象として、キョロロの職員が行っている仕事や、普段見ることのできない博物館のバックヤードを体験できるイベント「こども一日館長」を、平成 25 年 8 月 8 日と 22 日に新たに実施しました。募集で集まった 7 人の子どもたちが、キョロロで飼育している生き物の餌やりや掃除、受付での接客など様々な体験を通して博物館での仕事を学びました。

こども一日館長の様子

10 周年記念企画展「みんなでつくった雪里大図鑑」

「森の学校」キョロロが、地域内外の様々な方々と協働して取り組んできた“ 博物館活動そのもの ”を、「みんなでつくった雪里大図鑑」として展示紹介しました。期間は平成 25 年 10 月 12 日から平成 26 年 6 月 29 日までの約 8 か月半で、展示を大きく 5 つのテーマに分けて構成しました。①「キョロロ・アーカイブズ」では、キョロロ建設の様子を当時の写真のスライドショーで紹介するコーナーや、10 年間の活動をまとめた年表、過去に開催した企画展のポスター、在籍した研究員たちの紹介など、キョロロの活動を概観できる展示を行いました。②「雪里大図鑑・自然編」では、在籍したキョロロ研究員・専門員の研究活動を、ハンズオン展示と共に紹介しました。新種の昆虫発見のニュースから、自動撮影カメラによって明らかになった絶滅危惧種の生態など、様々な活動内容を分かりやすく展示しました。③「雪里大図鑑・文化編」では、協働で復活させた伝統行事や、地域の方々から提供いただいた貴重な民具を、動画を使用したり試着コーナーを設けたりして紹介しました。④「雪里大図鑑・地域づくり編」では、地域資源を活用した教育・観光・産業などへの具体的な応用事例、仕組み作りの様子を紹介しました。そして最後の⑤「雪里大図鑑・創造編」では、ブナの木を模したパネルに、キョロロへのメッセージをブナの葉カードに書いて茂らせていくコーナーを設置しました。来館者と共に、これから先のキョロロの活動を創造していく空間となりました。この他にも、「館内で飼育しているカエルの人気投票」、「キョロロ研究員へのなんでも質問コーナー」、「等身大のミニチュアキョロロに自由に絵やメッセージを描くことのできるコーナー」などを設置しました。

10 周年記念企画展のポスター

②雪里大図鑑・自然編の展示風景

③雪里大図鑑・文化編の展示風景

ミニチュアキョロロの展示風景

10 周年記念植樹

10 周年記念企画展と関連した記念イベントとして、平成 25 年 10 月 14 日に、十日町市の木であるブナの苗木を植樹する事業を行いました。当日は秋の晴天に恵まれ、関口市長夫妻をはじめとして 40 名ほどの参加者が集まり、キョロロの裏山に総数 500 本あまりのブナの苗木を植樹しました。

植樹を行う関口市長夫妻

開館 10 周年記念式典・講演会・祝賀会

記念式典

平成 25 年 11 月 16 日、「森の学校」キョロロの設立計画当初から様々な形でご支援やご協力をいただいてきた方々をお招きして、キョロロ開館 10 周年記念式典を開催しました。会場はキョロロの食文化体験工房で、50 名を超える招待者の方々からご参集いただきました。初めに、開館 10 周年記念事業実行委員長である蔵品泰治教育長による開会挨拶が行われました。続いて、関口芳史十日町市長、村松二郎新潟県議会議員、池内了キョロロ顧問（総合研究大学院大学 理事・教授）からご祝辞をいただきました。最後に、村山暁館長からキョロロの歩みが紹介されました。

蔵品泰治教育長による開会の挨拶

記念講演会 ～雪里の小さな博物館が地域のためにできること～

開館 10 周年記念講演会は、記念式典の終了後、会場を松之山自然休養村センターに移して 100 名近くの参加者のもと、第 19 回里山学会を兼ねて開催しました。講演会は、「雪里の小さな博物館が地域のためにできること」をテーマに行われました。キョロロは雪降る里山 “ 雪里 ” の中に建てられた “ 地域博物館※” とみなせる施設であり、学術的な研究や展示だけでなく、市民を主体とした地域作りの拠点となる施設を目指して活動してきました。開館から 10 年が経過し、キョロロのこれまでの歩みを振り返り、これからどのような地域づくりを展開していくかについて、お二人の講演者の方から専門的なご意見をいただくと共に、地域住民の方々も交えて議論を行いました。

開館 10 周年記念講演会のチラシ

講演を行う君塚仁彦教授

初めに、東京学芸大学 君塚仁彦教授から「地域に『活きる』、地域を『活かす』博物館」と題してご講演いただきました。君塚氏のご専門は「博物館学」で、特に日本各地の博物館を見聞きしてこられたご経験から、これからの地域博物館が目指すべき未来像について研究されています。講演では、平塚市博物館などを例に、これからの地域博物館は「ただ資料を展示するだけの場ではなく、来館者自身が地域の価値を再認識し、新たな価値を見出す場となることが必要である。そんな来館者が地域を作る新たな担い手となっていくことで、地域博物館と市民が一体となって地域を創造していくことができる」と話されました。

続いて、広島県北広島町芸北高原の自然館 白川勝信主任学芸員からは、「生物多様性をキーワードに取り戻す、地域と自然の良い関係」と題してご講演いただきました。白川氏は、キョロロと同様に小さな地域博物館で、地域住民と一体となった町づくり活動を実践されています。講演では、一度地域で途絶えていた、雲月山での “ 山焼き ” の復活などを例としてお話しいただきました。山焼きは、以前は日本各地で行われていましたが、近年は山火事につながる危険性があることなどから行われることが少なくなりました。しかし草原の中には、人があえて火を入れることによって、希少な植物が残されている場所もあります。白川氏は草原の生物多様性を守るために、お年寄りから子どもまで町民すべてに役割を持たせた山焼き活動を行っていて、地域が一丸となって行う保全活動の重要性をご紹介いただきました。

講演を行う白川勝信主任学芸員

※ 地域博物館とは、地域の自然や文化などを保存したり、それらを活用した教育普及活動を行ったりする、地域に根ざした博物館活動を行う博物館のこと。

続くパネルディスカッションでは、講演者のお二方と共に、本山敏雄十日町市役所松之山支所長が加わり、元キョロロ学芸員の永野昌博大分大学准教授にパネルコーディネーターを務めていただき、「雪里の小さな博物館が地域のためにできること」をテーマに会場の意見も交えながら議論を深めました。本山支所長からは、キョロロ建設当初の経緯を踏まえて、開館までの苦労話や地域住民との意見交換などを紹介いただきました。永野准教授からは、開館から 8 年間学芸員として関わった経験を元に、今後のキョロロの進むべき方向への貴重な意見を引き出していただきました。会場の皆さんからは、キョロロがこれまで果たしてきた地域活性化のための活動や、地域内外の学校における教育支援など様々な活動を評価していただきました。一方で、地域の自然や文化的資源をキョロロ館内だけでなく、これまで以上に広く発信してほしいとのご意見をいただきました。

パネルディスカッションの様子

記念祝賀会

開館 10 周年記念祝賀会は、記念講演会の終了後、同会場にて 65 名ほどの参加者のもと、開催しました。キョロロ開館当時の佐藤利幸元松之山町長からのご祝辞に続き、村山邦一十日町市議会議員による乾杯の発声で祝賀会を開催しました。祝宴では、キョロロ設計者の手塚貴晴氏より、設計から建設に至るまでの裏話などを聞かせていただきました。

キョロロ設計者の手塚貴晴氏

開館 10 周年記念式典・講演会・祝賀会の概要 （敬称略）

記念式典	【時間：13：00 ～ 13：25、会場：キョロロ食文化体験工房】
開会のあいさつ	蔵品 泰治（開館 10 周年記念事業実行委員長、十日町市教育長）
来賓のあいさつ	関口 芳史（十日町市長）、村松 二郎（新潟県議会議員）、池内 了（キョロロ顧問、総合研究大学院大学 理事・教授）
キョロロの沿革について	村山 暁（キョロロ館長）
記念講演会	【時間：14：00 ～ 17：00、会場：松之山自然休養村センター】
開会のあいさつ	庭野 三省（十日町市教育委員長）
学会趣旨説明	小林 誠（キョロロ研究員）
講演 1	タイトル：地域に『活きる』、地域を『活かす』博物館
	君塚 仁彦（東京学芸大学 教育学部 教授）
講演 2	タイトル：生物多様性をキーワードに取り戻す、地域と自然の良い関係
	白川 勝信（北広島町 芸北 高原の自然館 主任学芸員）
パネルディスカッション	テーマ：雪里の小さな博物館が地域のためにできること
	コーディネーター：永野 昌博（大分大学 教育福祉科学部 准教授）
	パネリスト：君塚仁彦、白川勝信、本山敏雄（十日町市役所松之山支所長）
閉会のあいさつ	佐藤 至（開館 10 周年記念事業副実行委員長）
記念祝賀会	【時間：17：30 ～ 19：00、会場：松之山自然休養村センター】
開会のあいさつ	蔵品 泰治（上述）
来賓のあいさつ	佐藤 利幸（前松之山町長）
乾杯	村山 邦一（十日町市議会議員）
スピーチ	手塚 貴晴（手塚建設研究所、キョロロ設計者）
閉会のあいさつ	柳 靖治（開館 10 周年記念事業副実行委員長）

「10 周年記念樹」へのメッセージ

開館 10 周年記念企画展「みんなでつくった雪里大図鑑」では、来館者や地域住民の方々が、キョロロでの体験を通して感じた思いや、これから 10 年先のキョロロに期待することを、ブナの葉を模したメッセージカードに書いていただき、10 周年記念樹に飾り付けました。ここではその一部を紹介します。キョロロのスタッフ一同は、皆様の期待に答えられるよう、これからも様々な活動に取り組んでいきます。

メッセージが飾られた 10 周年記念樹

～キョロロへのメッセージを紹介します～

この 10 年間の歩みを糧にして、これからの 10 年の発展を目指し、地域に生きる科学館として大きく飛翔しよう！

市内に住んでいますが、我が家の子どもたちは何度もキョロロに遊びに来ています。アリ探しにカブトムシ、興味があって大好きな場所です。

キョロロがこの地区の学校の子どもたちの自然体験・学習に増々寄与できることを祈念しています。

ゲンゴロウやメダカを捕まえたよ。

暑かったですが里山探検がとても楽しかったです。冬のキョロロにも来てみたいです。1 年に何度も、これからず～と訪れたいと思います。

夜の昆虫体験が楽しかった。

かえるちゃんがかわいかったよ！ありがとう！

キョロロ 10 周年誠におめでとうございます。山村に生まれ育ちながら山を知らない人が多くなってきました。山の学び舎が、多くの山の語りべを送り出してくれることを願っています。

木の車が面白かった。また来たいなあ～。

10 年たっても同じ姿のキョロロ。雪に囲まれ、人に囲まれて 10 歳のキョロロはしあわせそうだなあ。

おいしいあんぽ、大根煮を食べさせてくれてありがとう！！

「キョロロ」に来たよ！木の乗り物すごかった！また来ようね！

10 歳おめでとう！！ キョロロの「ピタゴラスイッチ」また作ってください。

囲炉裏にあたっている時間が楽しかった。

たくさんの自然に触れる行事があり、すごく体験してみたいという気になりました。研究員さんちの各研究がとても素晴らしいと思いました。

クワカブルームで初めてクワガタムシを持てました。ありがとう！

キョロロに来ると、その度に新しい発見と出会いがあり嬉しいです。これからもキョロロに通います。

※ ここでは、たくさんいただいたメッセージの一部を紹介しています。

付録

資料

利用者数の推移

1-1：年間の入館者数

平成 15 年 7 月からの総入館者数は 339,227 人（平成 25 年 12 月末）[*1]となりました。大地の芸術祭開催年（平成 15、18、21、24 年）の入館者数は平年の平均 2.2 倍となり、平成 24 年には 73,059 人を記録しました。また近年、入館者に占める子どもの割合が増加傾向にあります。

＊1：平成 22 年度以降の入館者集計には、ミュージアムショップ利用者数、食文化体験工房「さとやまキッチン」利用者数を含む。
＊2：有料入館者（小中高校生、大人、団体、里山のめぐみ案内、パスポート使用）、無料入館者（未就学児、友の会、減免対象者）が含まれる。
＊3：7 月からの入館者数。
＊4：12 月末までの入館者数。
＊5：有料入館者に占める小中高生の割合。

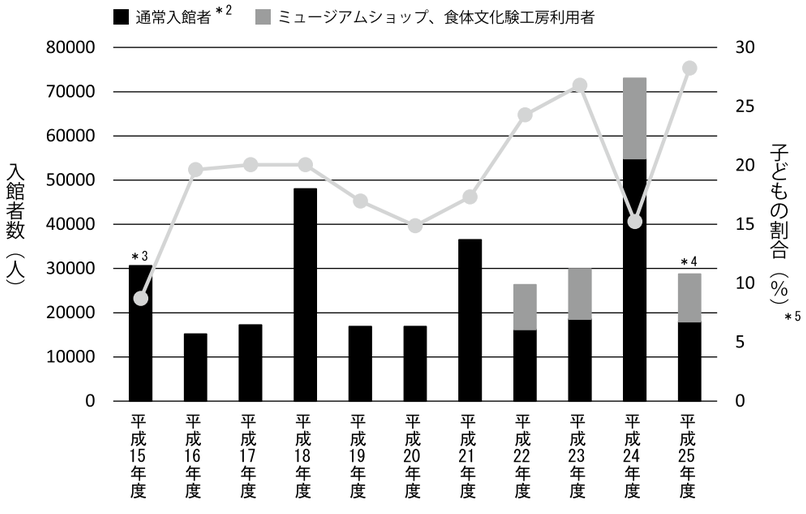


図 1
年間入館者数の推移（棒グラフ）**と子ども入館者の割合**（折れ線グラフ）

1-2：各月の入館者数

各年とも 8 月に入館者数のピークがあり、平成 24 年 8 月には 24,841[*1]人を記録しました（日最高 2,965 人）[*2]。また、近傍の美人林における新緑と紅葉の時期の観光客により、5 月と 11 月に通常入館者およびミュージアムショップ・食文化体験工房利用者の小ピークが見られます。

＊1：ミュージアムショップ利用者数、食文化体験工房「さとやまキッチン」利用者数を含むと 31,336 人。
＊2：ミュージアムショップ利用者数、食文化体験工房「さとやまキッチン」利用者数を含むと 3,325 人。
＊3：有料入館者（小中高校生、大人、団体、里山のめぐみ案内、パスポート使用）、無料入館者（未就学児、友の会、減免対象者）が含まれる。

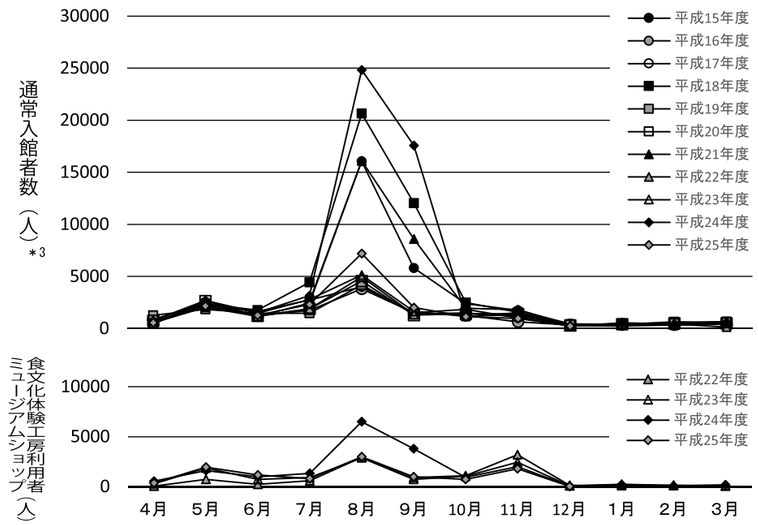


図 2
各月の入館者数の推移

2-1：イベント開催数と参加者数[*1]

平成 18 年からのイベント開催数は 584 回を数え、年平均 72.5 回、月平均 6.0 回のイベントが開催されてきました。参加者数は平成 18 年からの累計で 6,299 人、1 回平均 10.8 人の参加者数があり、近年顕著な増加傾向にあります。

＊1：平成 18 年からの各年度の累計数。
＊2：イベント開催数は、参加者があったイベントのみをカウント。
＊3：平成 25 年度は平成 26 年 1 月 12 日現在の値。

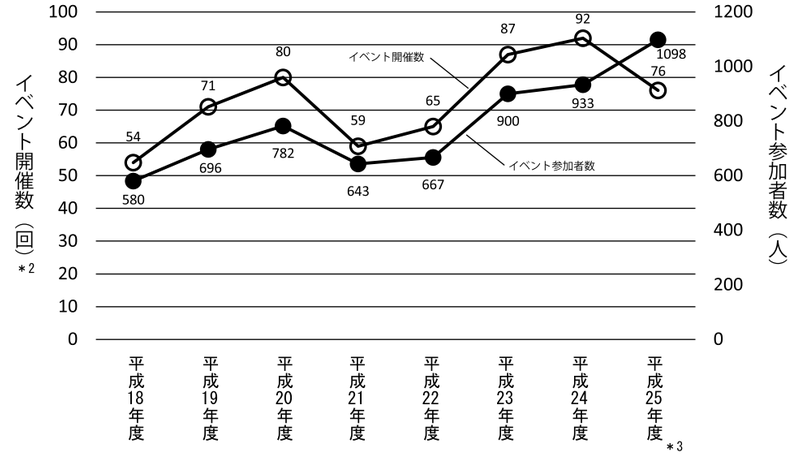


図 3
年間のイベント開催数と参加者数の推移

3-1：学校、団体などの利用回数[*1]

平成 17-19 年の理数大好きモデル地域事業により学校支援活動の基盤ができ、年平均 82.8 回の学校支援活動が継続しています。館内外におけるガイド、自然観察インストラクター、学校以外の各種団体利用は年平均 39 回を数えます。また近年では、越後田舎体験や里山のめぐみ案内での利用回数が増加傾向にあります。

＊1：平成 18 年 7 月からの各年度の累計数。
＊2：来館しての活動およびスタッフが派遣されての活動を含む。
＊3：館内ガイド、フィールドにおけるインストラクター、学校以外の各種団体利用を含む。
＊4：平成 25 年度は 12 月末までの値。

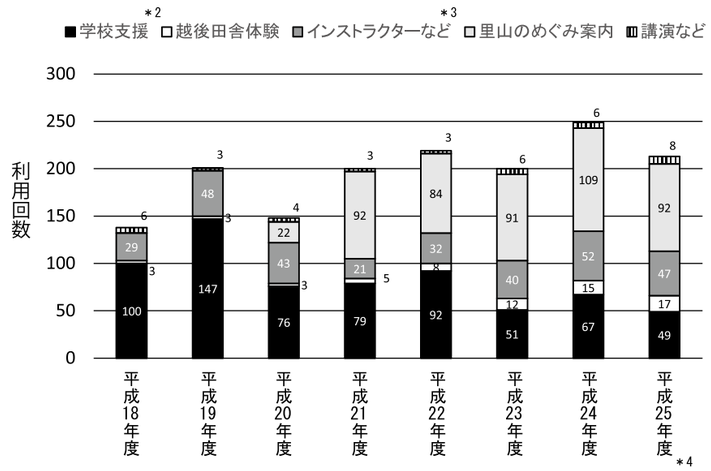


図 4
学校、団体などの年間利用回数の推移

付録

職員一覧

平成 15 年度

館長：佐藤利幸（兼）
施設係長：高橋忠則
主事：高橋広助
　　永野昌博(学芸員)
研究員：澤畠拓夫
　　畑田彩
運転員：佐藤一善
受付：東川久美子

顧問：池内了、ディレクター：北川フラム、運営委員：村山里志、石塚幸貞、柳靖治（副委員長）、村山三二、柳能弘、井ノ川茂徳、古見太佳雄、久保田重近、佐藤則子、樋口京子、丸林礼一、飯塚哲郎、久保田雄司、村山暁（委員長）、濁川明夫

平成 16 年度

館長：佐藤利幸（兼）
支所課長：小野塚良雄
施設係長：田辺道博
主事：高橋広助
　　永野昌博(学芸員)
研究員：澤畠拓夫
　　畑田彩
運転員：佐藤一善
受付：東川久美子
研究補助：青木由親

顧問：池内了、ディレクター：北川フラム、運営委員：村山里志、柳靖治（副委員長）、村山三二、柳能弘、井ノ川茂徳、古見太佳雄、田辺広、佐藤則子、樋口京子、久保田雄司、村山暁（委員長）、濁川明夫

平成 17 年度

館長：小野塚良雄（兼）
支所課長：高橋明夫（兼）
森の学校係長：田辺道博
主事：高橋広助
　　永野昌博(学芸員)
研究員：澤畠拓夫
　　畑田彩
運転員：佐藤一善
受付：東川久美子
研究補助：丸野内淳介

顧問：池内了、ディレクター：北川フラム、運営委員：村山里志、相沢正平、柳能弘、小野塚修一、村山義政、小堺哲也、柳靖治（副委員長）、久保田雄司、保坂広一、村山暁（委員長）、濁川明夫、樋口京子

平成 18 年度

館長：小野塚良雄（兼）
支所課長：高橋明夫（兼）
森の学校係長：田辺道博
主事：高橋広助
　　永野昌博(学芸員)
研究員：田邉慎一
　　野口麻穂子
専門員：三上光一
管理員：佐藤一善
受付：東川久美子
　　佐藤久美子
　　小野塚喜代子
研究補助：宮澤育

顧問：池内了、ディレクター：北川フラム、運営委員：相沢正平、柳能弘、小野塚修一、村山義政、小堺哲也、柳靖治（副委員長）、久保田雄司、福原鉄雄、村山暁（委員長）、濁川明夫、樋口京子

平成 19 年度

館長：小野塚良雄（兼）
課長：大島勉
森の学校施設係長：田辺道博
主事：高橋広助
　　永野昌博(学芸員)
研究員：田邉慎一
　　西浩孝
専門員：三上光一
管理員：佐藤一善
受付：佐藤久美子

顧問：池内了、ディレクター：北川フラム、運営委員：相沢正平、柳能弘（副委員長）、小野塚修一、村山義政、小堺哲也、柳靖治、久保田雄司、高橋精一郎、村山暁（委員長）、樋口京子

平成 20 年度

課長：大島勉
森の学校施設係長：田辺道博
主任：田畑裕之
　　永野昌博(学芸員)
研究員：大脇淳
　　深澤知里
専門員：三上光一
　　澤畠拓夫
管理員：佐藤一善
受付：佐藤久美子
研究補助：相沢堅
　　深井幸貴

顧問：池内了、ディレクター：北川フラム、運営委員：相沢正平、柳能弘、山崎美枝子、小堺哲也、柳靖治（副委員長）、久保田雄司、久保田重近、村山暁（委員長）、樋口京子

平成 21 年度

課長：椙沢武
森の学校施設係長：佐藤則夫
　　本山優
主任：田畑裕之
　　永野昌博（学芸員）
研究員：大脇淳
　　深澤知里
　　小林誠
専門員：山岸洋貴
管理員：佐藤一善
受付：高橋利枝
　　大木美久
研究補助：相沢堅

顧問：池内了、ディレクター：北川フラム、運営委員：高橋洋一、高橋嵩一、山崎美枝子、小堺哲也、柳靖治（副委員長）、久保田雄司、志賀勝栄、村山暁（委員長）、佐藤礼子

平成 22 年度

課長：竹内俊道
館長：村山暁
副館長：田辺久子（兼）
主任：田畑裕之
　　永野昌博（学芸員）
研究員：大脇淳
　　小林誠
　　鶴智之
専門員：伊藤千恵
管理員：佐藤一善
受付：高橋利枝
事務：池田妙子
研究補助：相沢堅
　　鈴木誠治
　　南雲豊
　　滝沢規子

顧問：池内了、ディレクター：北川フラム、運営委員：高橋洋一、高橋嵩一、山崎美枝子、小堺哲也、柳靖治（副委員長）、久保田雄司、田辺廣、佐藤至（委員長）、佐藤礼子

平成 23 年度

課長：水落久夫
館長：村山暁
副館長：田辺久子（兼）
主任：田畑裕之
研究員：小林誠
　　鶴智之
　　岩西哲
専門員：伊藤千恵
管理員：佐藤一善
受付：高橋利枝
事務：池田妙子
研究補助：相沢堅

顧問：池内了、ディレクター：北川フラム、運営委員：高橋洋一、高橋嵩一、柳澤浩一、小野塚修一、柳靖治（副委員長）、久保田雄司、高橋精一郎、佐藤至（委員長）、草村慶子

平成 24 年度

課長：水落久夫
館長：村山暁
副館長：田辺久子（兼）
業務係長：春日智
研究員：小林誠
　　鶴智之
　　岩西哲
専門員：伊藤千恵
管理員：佐藤一善
受付：高橋利枝
　　滝沢規子
事務：池田妙子
　　田辺道博
研究補助：相沢堅
　　福原正直

顧問：池内了、ディレクター：北川フラム、運営委員：高橋洋一、高橋嵩一、柳澤浩一、小野塚修一、柳靖治（副委員長）、久保田雄司、志賀恵雄、佐藤至（委員長）、草村慶子

平成 25 年度

課長：南雲和幸
館長：村山暁
副館長：福原輪祐（兼）
業務係長：春日智
主査：村山真男（兼）
研究員：小林誠
　　鶴智之
　　岩西哲
管理員：津端薫
受付：高橋利枝
事務：池田妙子
　　石口松男

顧問：池内了、ディレクター：北川フラム、運営委員：高橋洋一、佐藤美佐子、齋藤俊明、小野塚修一、柳靖治（副委員長）、久保田雄司、福原鉄雄、佐藤至（委員長）、草村慶子

付録

「森の学校」キョロロ　開館 10 周年記念事業実行委員会

実行委員長　蔵品泰治（十日町市教育長）
副実行委員長　佐藤至（運営委員長）
柳靖治（副運営委員長）
南雲和幸（十日町市生涯学習課長）
実行委員　村山暁（館長）　福原諭祐（副館長）　春日智（職員）　村山真男（職員）　小林誠（研究員）
鶴智之（研究員）　岩西哲（研究員）　津端薫（職員）　高橋利枝（職員）　池田妙子（職員）
石口松男（職員）
田辺久子（前副館長）　佐藤一善（前職員）

顧問　池内了（顧問）
北川フラム（ディレクター）

十日町市立里山科学館　越後松之山「森の学校」キョロロ
開館 10 周年記念誌

発行　十日町市立里山科学館　越後松之山「森の学校」キョロロ
発行日　2014 年 3 月 1 日
編集　「森の学校」キョロロ　開館 10 周年記念事業実行委員会
編集スタッフ：岩西哲、小林誠、鶴智之、村山暁
協力：永野昌博（大分大学 教育福祉学部）
写真　本文に記載

問い合せ先　〒942-1411　新潟県十日町市松之山松口 1712-2
tel. 025-595-8311　fax. 025-595-8320
URL: http://www.matsunoyama.com/kyororo/
E-mail: kyororo@dolphin.ocn.ne.jp

印刷　株式会社 滝沢印刷
（〒948-0082　十日町市本町 2 丁目　tel. 025-757-2191　fax. 025-757-1591）